

はじめよう 楽しい英語活動

～ 小学校英語活動 進め方のヒント～

What subject do you like?

I like English.



平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

はじめに

小学校では、平成 10 年に改訂された学習指導要領により総合的な学習の時間が設けられてから、国際理解に関する学習の一環としての英語活動が広く行われるようになりました。平成 19 年度小学校英語活動実施状況調査(文部科学省)によると、全国の公立小学校の 97.1%で英語活動が実施されています。しかし、学校によって取組にばらつきがあり、教育の機会均等や中学校との円滑な接続等の観点から共通に指導する内容を示すことが必要となってきました。また、社会や経済のグローバル化が急速に進展し、国際的に活躍できる人材の育成が強く求められています。このような中で、平成 20 年 3 月の小学校学習指導要領の改訂に伴い、小学校の第 5 学年、第 6 学年に「外国語活動」が新設されました。

「外国語活動」が目指すものは、主に英語を通してコミュニケーション能力の素地を養うことです。言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことが大切です。

神奈川県立総合教育センターでは、これまでも小学校英語活動の実践に関する研究に取り組み、実践研究及び教材・教具の開発を行ってきました。平成 20 年度は、新小学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、調査研究協力員の先生方のご協力をいただきながら小学校英語活動の実践に関する研究を進めてまいりました。この度、その成果を本冊子「はじめよう 楽しい英語活動～小学校英語活動 進め方のヒント～」にまとめることができました。平成 20 年 3 月に発刊いたしました「小学校英語活動 15 子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために」及び平成 21 年 3 月に各教育事務所及び市町村教育委員会に配付いたしました教育映像資料「きらめきかながわ 自信を持ってすすめよう！～小学校英語活動～」とともに、各学校における英語活動の取組の一助としてご活用いただければ幸いです。

平成 21 年 3 月

神奈川県立総合教育センター

所 長 安 藤 正 幸

目次

はじめに

目次

本冊子の目的と構成

英語活動の目標編

第1章 なぜ小学校で英語活動をするのでしょうか？	1
1 「外国語活動」新設の趣旨	1
2 英語活動を通してはぐくまれる児童の姿	1
第2章 英語活動は何を目標としているのですか？	2
1 「外国語活動」の目標	2
2 三つの柱	2

指導計画編

第3章 年間指導計画はどのように作ればよいのでしょうか？	4
1 英語活動の指導目標	4
2 年間指導計画作成	5
3 年間指導計画例	8
第4章 単元計画はどのように作ればよいのでしょうか？	10
1 授業の進め方の固定	10
2 単元計画の方向性	11
3 単元計画の作成	13
4 単元計画例	16

コラム 担任が英語活動の指導計画にかかわる重要性 18

第5章 評価についてはどのように考えればよいのでしょうか？	19
1 評価の観点	19
2 評価規準の設定	19
3 評価を記述するときの留意点	20

コラム 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度とは 21

授業実践編

第6章 英語活動ではどのような点に気を付ければよいのでしょうか？	22
1 「聞くこと」と「話すこと」	22
2 自然なコミュニケーション場面の設定	23
3 英語活動に取り組む担任の姿勢	25
第7章 どのようにいろいろな活動を行えばよいのでしょうか？	26
1 いろいろな活動	26
2 いろいろな活動の内容	27
第8章 楽しい英語活動にするにはどのような工夫をすればよいのでしょうか？	33
1 「何だろう？」と思わせる工夫	33
2 驚きや発見を与える工夫	33
3 体感させる工夫	34
4 達成感を与える工夫	34
5 英語や活動内容を理解させる工夫	34
6 英語活動に参加している気持ちにさせる工夫	35
7 自信を持って英語活動に取り組ませる工夫	36
8 またやりたいと思わせる工夫	37

コラム 自分の英語力を高める	- - - - -	37
第9章 授業はどのように作っていけばよいでしょうか？	- - - - -	38
1 授業の流れの作成	- - - - -	38
2 シナリオの作成	- - - - -	40
3 授業の振り返り	- - - - -	42
第10章 他校の事例はどのようにアレンジすればよいでしょうか？	- - - - -	43
1 他校の事例から読み取ること	- - - - -	43
2 児童の実態に合わせたアレンジ	- - - - -	43
第11章 授業中はどのくらい英語を使えばよいでしょうか？	- - - - -	45
1 あいさつや指示などで英語を使うときの留意点	- - - - -	45
2 簡単な英語表現で進める授業例	- - - - -	46
第12章 教材や教具の扱いはどうしたらよいでしょうか？	- - - - -	48
1 教材・教具の工夫	- - - - -	48
2 いろいろな使い方	- - - - -	48
3 教材・教具の共有と管理	- - - - -	48
第13章 A L Tとどのように協力すればよいでしょうか？	- - - - -	49
1 授業計画のパートナーとして	- - - - -	49
2 授業のパートナーとして	- - - - -	49
3 A L Tとの打合せ	- - - - -	49
第14章 文字はどのように扱えばよいでしょうか？	- - - - -	50
1 文字の扱いに関する基本的な考え方	- - - - -	50
2 文字を扱った事例	- - - - -	50
第15章 学校独自の英語活動はどのように開発するのでしょうか？	- - - - -	58
学校全体の取組編		
第16章 どのような校内研修をすればよいでしょうか？	- - - - -	61
1 校内研修で扱う内容	- - - - -	61
2 実践校の例	- - - - -	61
第17章 保護者にどのようなことを理解してもらおうとよいでしょうか？	- - - - -	63
1 校内の共通理解	- - - - -	63
2 保護者に理解してもらう内容	- - - - -	63
第18章 中学校にどのようなことを理解してもらおうとよいでしょうか？	- - - - -	64
1 小学校の英語活動と中学校の英語教育	- - - - -	64
2 中学校の先生方に理解してもらう内容	- - - - -	64
資料編		
ワークシート	- - - - -	65
主な単語一覧	- - - - -	67
主な表現一覧	- - - - -	70
引用・参考文献	- - - - -	71
作成関係者		

本冊子の目的と構成

1 本冊子の目的

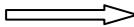
本冊子は、英語活動の指導計画の作成や授業の実施などに関するヒントを提供し、主に担任が英語活動を進めていくことで、英語を通じて、児童のコミュニケーション能力の素地を養うことを目的としています。

2 本冊子の使い方

小学校において様々な英語活動への取組がなされていることを踏まえ、分かりやすく各学校の疑問点を解決できるようにQ & A形式の構成となっています。必要な箇所を読み、英語活動を進める上でのヒントとしてください。

英語活動の目標について知りたい方は  p. 1 ~ p. 3

英語活動の年間指導計画や評価について知りたい方は  p. 4 ~ p.21

英語活動の授業の作り方について知りたい方は  p.22 ~ p.60

校内研修などの学校全体での取組について知りたい方は  p.61 ~ p.64

平成 20 年 3 月に発刊した神奈川県立総合教育センター「小学校英語活動 15 子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために」も併せてご活用ください。

本冊子で扱っている英語ノートを用いた事例は、平成 20 年度に文部科学省から小学校英語活動等国際理解教育拠点校などに配布された「英語ノート 5 年生試作版」「英語ノート 6 年生試作版」及び「英語ノート指導資料第 5 学年試作版」「英語ノート指導資料第 6 学年試作版」に基づいています。「英語ノート」は、各拠点校の意見を踏まえて修正され、それぞれ「英語ノート 1」、「英語ノート 2」と名称を変更して、希望する小学校に平成 20 年度内に配布される予定です。

第 1 章 なぜ小学校で英語活動をするのでしょうか？

平成 20 年 3 月に新小学校学習指導要領が告示され、小学校第 5 学年及び第 6 学年に、年間 35 単位時間（週 1 コマ相当）の「外国語活動」が新設されました。「外国語活動」は、英語を取り扱うことを原則としています。小学校で英語を学ぶ意義を、「外国語活動」新設の趣旨及び実践校の児童の姿から考えてみましょう。

1 「外国語活動」新設の趣旨

小学校に「外国語活動」が新設された趣旨の概要は、次のとおりです。

社会や経済のグローバル化が急速に進展し、学校教育において外国語教育を充実することが重要となっている。

中学校におけるあいさつ、自己紹介などの初歩的な英語に接する活動は、むしろ小学校段階での活動になじむ。

各学校における英語活動の取組には相当のばらつきがあり、教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、共通に指導する内容を示す必要がある。

（文部科学省 平成 20 年 8 月 小学校学習指導要領解説外国語活動編（以下「学習指導要領解説」という。）p. 4 ~ p. 5）

また、「現代の子どもたちが、自分の感情や思いを表現したり、他者のそれを受け止めたりするための語彙や表現力及び理解力に乏しいことにより、他者とのコミュニケーションが図れないケースが見られる」（学習指導要領解説 p. 8）ことも、背景にあります。

2 英語活動を通してはぐくまれる児童の姿

次に紹介するのは、英語活動の実践校で見られる児童の姿です。このような児童の姿の中に英語活動の意義を見いだすことができます。

いろいろな英語活動を通じて、日本語や英語のおもしろさに気付いた。

分からない英語があっても、担任や外国語指導助手（ALT）のジェスチャーなどを見ながら聞こえた英語の内容を理解しようとしている。

英語活動で行うゲームなどを通して児童の間に新たなかかわりが生まれた。

英語に対して抵抗感がなく、ALT や外国人に積極的に英語を使って声をかけている。

以上の児童の姿から、英語活動を行うことで、児童同士のかかわりやコミュニケーションを図ろうとする態度、文化や言語の理解に良い影響が出てくることが期待できます。

第2章 英語活動は何を目標としているのですか？

「外国語活動」の目標は、コミュニケーション能力の素地を養うことです。コミュニケーション能力の素地は、中・高等学校の外国語科で目指すコミュニケーション能力を支えるものとして位置付けられています。

1 「外国語活動」の目標

新しい小学校学習指導要領に示されている「外国語活動」の目標は次のとおりです。学習指導要領解説（p.6）に示されていますが、外国語を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に重点が置かれています。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。

2 三つの柱

「外国語活動」の目標は、次の三つの柱から成り立っています。「外国語活動」は、これらの柱を踏まえた活動を統合的に児童に体験させることで、コミュニケーション能力の素地を養おうとするものです。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める。

外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる。

（学習指導要領解説 p.7）

それぞれの柱について、次の点を押さえておきましょう。なお、「外国語活動」は、英語を取り扱うことを原則としているので、本冊子では、これ以降、「外国語活動」を「英語活動」として扱います。

言語や文化について体験的に理解を深めることについて

- ・言葉への自覚を促す。
- ・幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培う。
- ・国語や日本の文化を含めた言語や文化に対する理解を深める。

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることについて

- ・英語を注意深く聞いて相手の思いを理解しようとする。
- ・他者に対して自分の思いを伝えることの難しさや大切さを実感したりしながら、積極的

に自分の思いを伝えようとする。

- ・体験を通して様々なコミュニケーションの方法に触れさせる。

英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませることについて

- ・体験的に「聞くこと」「話すこと」を通して、音声や表現に慣れ親しませる。
- ・中学校段階の文法などの前倒しではない。



コミュニケーション能力の素地を養う方法が、「英語を通じて」という点に英語活動の特徴があります。もう一つ気を付けておくべきことは、多くの表現を覚えさせたり、細かい文構造を理解させたり、「聞くことができること」や「話すことができること」などのスキル向上のみを目標として指導したりすることは、英語活動の目標とは合わないということです。

考えてみましょう

小学校英語活動はコミュニケーション能力の素地を養うことが目標ですが、英語活動における「コミュニケーション」をどのようにとらえればよいでしょうか。次の例は、英語活動の実践校におけるコミュニケーションのポイントのとらえ方を示したものです。英語活動におけるコミュニケーションのとらえを考える際の参考にしてください。

- A 小学校 聞いて、推測して、反応する。
- B 小学校 聞いて、活動する。
- C 小学校 Heart, Eye Contact, Smile.
- D 小学校 五感を使って感じ、思ったことを表現する。

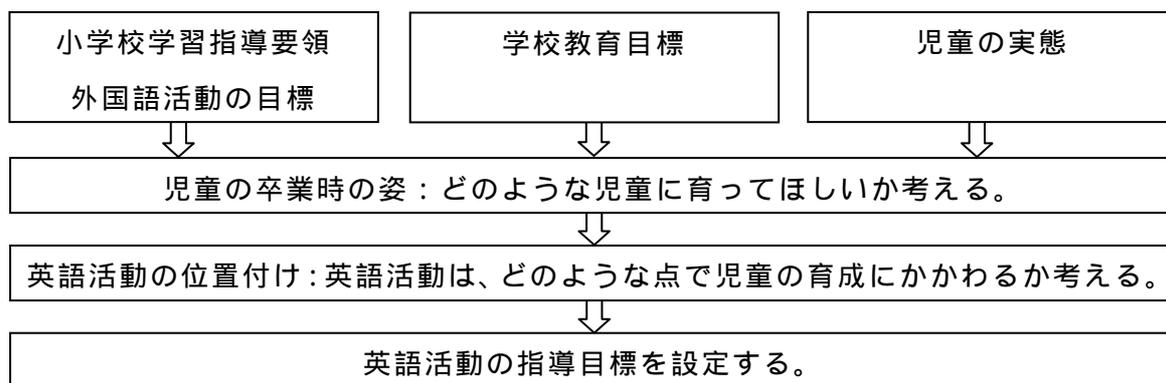
神奈川県立総合教育センターが平成 20 年 3 月に発刊した「小学校英語活動 15 子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために」(以下「小学校英語活動 15」という。)では、子どもたちに身に付けさせたいこととして、「相手の話を聞いて、その内容を理解しようとする事」「態度や知っている言葉で、自分の気持ちや言いたいことを伝えようとする事」をコミュニケーションにかかわることとして挙げています。参考にしてください。

第3章 年間指導計画はどのように作ればよいでしょうか？

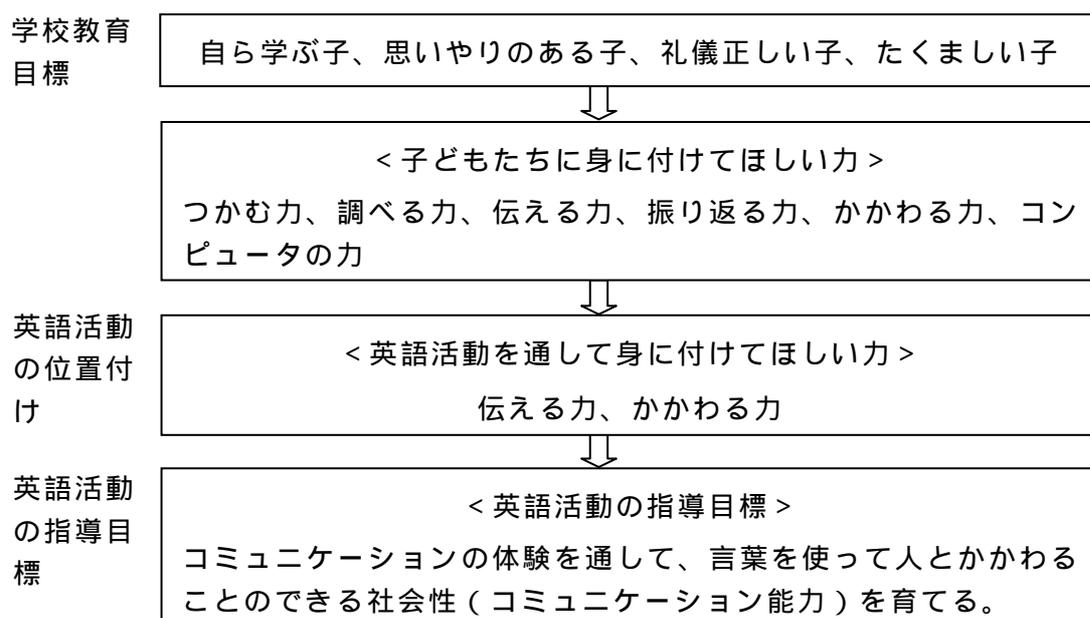
年間指導計画を立てる際は、「外国語活動」の目標及び学校教育目標に基づいて、それぞれの小学校で英語活動の指導目標を設定し、児童にとって身近な話題・題材・場面（以下「トピック」という。）や主な活動、扱う英語表現を考えていきます。

1 英語活動の指導目標

英語活動の年間指導計画を作成する際には、まず小学校学習指導要領や学校の教育目標及び児童の実態を踏まえて、それぞれの小学校で英語活動の指導目標を設定することが大切です。



次の例は、ある小学校の学校教育目標と英語活動の指導目標を参考にして、学校教育目標、英語活動の位置付け、英語活動の指導目標の関係を表したものです。卒業時の児童の姿は、子どもたちに身に付けてほしい力として表してあります。この例では、英語活動を伝える力とかかわる力に関連付けて、英語活動の指導目標を設定しています。



次の例は英語活動の実践校で見られるようになった児童の姿です。英語活動を通して育成される児童の姿の例として、p. 1の児童の姿とともに参考にしてください。

覚えた英語を使って話してみたいという児童が出てきた。

自分の思いを伝えるために、新しい英語を知りたいという児童が出てきた。

外国の人と触れ合ったり英語を聞いたりする活動に抵抗がなくなった。

人が言っていることを一生懸命聞こうとするようになった。

自分が言いたいことを一生懸命伝えようとするようになった。

英語活動の時間だけではなく、普段からいろいろな友達に進んで話しかけるようになった。

相手の目を見て話したり、相手の気持ちをつかみ取ろうとしたりするようになった。

考えてみましょう

学校教育目標、児童の実態、卒業時の児童の姿を考えてみましょう。次に、卒業時の姿で表される児童を育成するために、英語活動を通してできることを考えてみましょう。(p.65のワークシートも利用できます。)

私の所属校では、「考える子」「やさしい子」が学校の教育目標のキーワードです。「外国語活動」の目標を踏まえて、言語や文化への理解は「考える子」と、コミュニケーションは「やさしい子」と結び付けて、英語活動を通して育成したい卒業時の児童の姿を次のように考えてみました。

- ・世界には様々な言葉や文化があることを理解している児童
- ・友達と積極的にかかわりを持ち、言葉で思いを伝え合おうとする児童



2 年間指導計画作成

(1) 必要なものを用意する

小学校学習指導要領、英語ノート、英語ノート指導資料、所属校のこれまでの取組内容が分かる資料、周囲の学校や実践校の取組が分かる資料、市町村県教育委員会・教育センター・教育研究所作成の資料、他都道府県の資料、市販の資料などを用意するとよいでしょう。

(2) 英語活動の年間指導計画に載せる内容を考える

年間指導計画には、扱うトピック、主な活動の概要、扱う英語表現を載せると分かりやすくなります。扱うトピックの数については、英語活動が年間35単位時間あるので、35個のトピックを選び、年間指導計画を作成することもできます。また、トピック数を少なくして単元として構成することもできます。英語ノートは扱うトピックを9レッスンにまとめて、それぞれ3～4時間の単元として扱っています。

(3) 年間指導計画作成の観点

ア バランス

小学校学習指導要領に記載されているコミュニケーションの場面の例やコミュニケーションの働きの例を基に、バランスのとれた内容の活動計画を作成しましょう。

コミュニケーションの場面の例

(ア)特有の表現がよく使われる場面

・あいさつ ・自己紹介 ・買物 ・食事 ・道案内 など

(イ)児童の身近な暮らしにかかわる場面

・家庭での生活 ・学校での学習や活動 ・地域の行事 ・子どもの遊び など

コミュニケーションの働きの例

(ア)相手との関係を円滑にする (イ)気持ちを伝える (ウ)事実を伝える

(エ)考えや意図を伝える (オ)相手の行動を促す

コミュニケーションの場面や働きの例は、そのまま使ったり、組み合わせたりして、トピックや活動を考えるときの参考にすることができます。



イ つながり

児童が行う活動が以前の活動とどのように関連しているか、そのつながりをきちんと押さえましょう。以前の活動で扱った英語表現を繰り返し聞かせたり、話させたりすることは、同じ表現により慣れ親しませ、英語活動に楽しく取り組ませるためにも大切です。

ウ 具体的な授業デザインのために

次の観点から、トピック、活動内容、扱う英語表現などを考えることができます。

学期ごと、月ごとの目標とトピックを考える

年中行事、学校行事、地域の行事などから時期に応じた児童にとって身近なトピックを考えます。

一ヶ月の流れの中で、毎時間の活動を考える

日程やALTの来校日などを考えながら、単元ごとの活動を考えます。

同じトピックで、5年生、6年生に合わせた内容を考える

児童の発達の段階やこれまでの学習内容を踏まえて活動や扱う英語表現を考えます。

違うトピックで、前に扱った表現を使う

前に扱った英語表現を繰り返し使うことで同じ表現に慣れ親しむことができるように考えます。

(4) 実践校の事例を参考にする

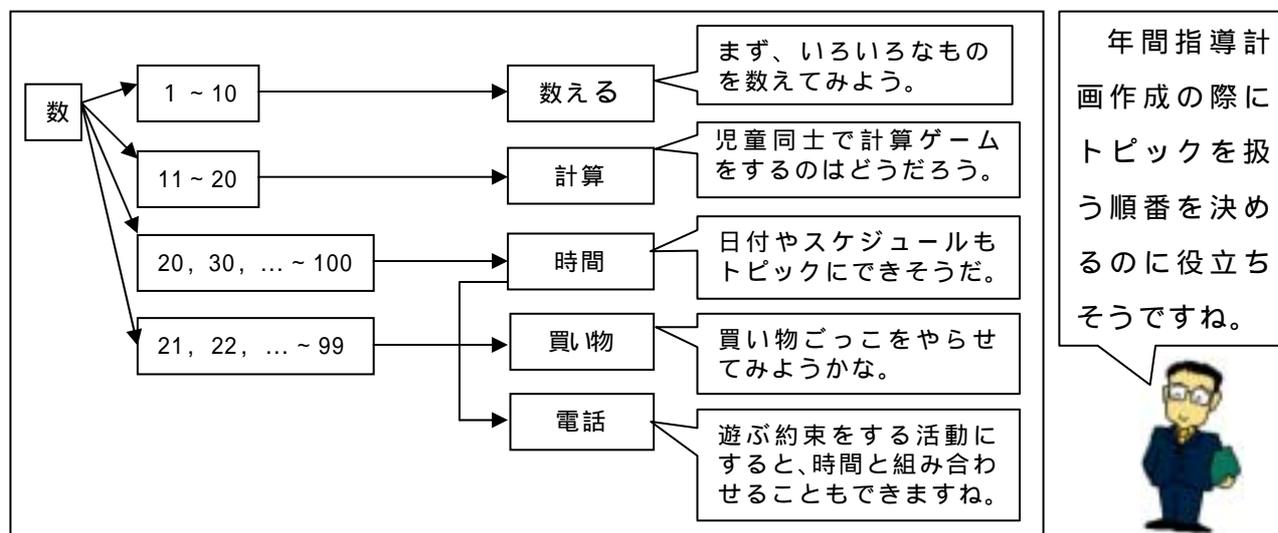
英語活動を実践してきた小学校では、次のようなトピックがよく扱われています。

あいさつ、自己紹介、誕生日、家族、友達、好きなもの、自分ができること、学校、教科、夏休み、身の回りのもの、修学旅行（学校行事）、計算、漢字、楽器、数、天気、色、電話、場所、曜日、月の名前、時間、動物、道案内、いろいろな国、アルファベット、食べ物、将来の夢、外来語など

トピックを組み合わせたり、コミュニケーションの働きの例と組み合わせたりすると、活動内容を具体化する際のヒントになります。例えば、「学校」と「食べ物」というトピックに「考えや意図を伝える」というコミュニケーションの働きを加えて、学校給食について自分の考えや意図を伝える活動を連想すれば、このことをヒントにして「夢の学校給食」「こんな給食を作ってください」という活動内容を考えることもできるでしょう。他にも「いろいろな国」と「時間」というトピックに「事実を伝える」というコミュニケーションの働きを加えることで、世界の時間を英語で言う活動を連想すれば、そこから、「この国は今何時？世界の時間クイズ」のような活動に発展させていくことが考えられます。

(5) 連想法の利用

連想法を利用してトピックを選ぶこともできます。いろいろなトピックと関連させやすいトピックを起点にするとよいでしょう。下の例は、数を起点にしたものです。



トピックを選んだら、内容のバランス、各トピック又は単元の主な活動、活動形態（全体活動、グループ活動、ペア活動、個別活動など）、扱う英語表現、学習した英語表現を繰り返して使うことができる場面の有無を検討しましょう。

3 年間指導計画例

次の年間指導計画例は、5年生と6年生の英語ノートを基にして作成したものです。

例1 第5学年 年間15時間（移行期間）

月	単元名	活動概要 囲み数字は、各時間の主な活動	扱う英語表現
9	世界の「こんにちは」を知ろう	世界には様々なあいさつがあることを知る。 あいさつのマナーを知り、積極的にあいさつし、自分の名前を言う。 友達とあいさつをし、作成した名刺を交換する。	What's your name? My name is Ken. Nice to meet you. など
10	数で遊ぼう	1～10までの数の表現を知り、いろいろなものを数える。 11～20までの数の表現を知り、英語での計算を楽しむ。 21～60までの数と時間の表現を知る。	one～sixty How many? What time is it? など
11	好きな果物を言おう	色や大きさ、いろいろな果物の表現を知る。 好き嫌いの言い方を知り、友だちに好き嫌いを尋ねる。 自分の好きな果物をクイズ形式で紹介する。	red, ... apples, ... small, ... I like apples. Do you like apples? Yes. / No. など
1	買い物をしよう	食べ物や文房具の表現を知る。欲しいものを相手に伝える。 欲しいものの値段を聞いたり言ったりする。 買い物ごっこをする。	hamburger, ... pencil, ... I want..., How much? など
2	クイズ大会をしよう	漢字クイズ、シルエットクイズを楽しむ。 クイズを出題する質問の表現に慣れ親しむ。 自分たちでクイズを作り、クイズ大会をする。	What's this? How many? What color? など

例1は、4月から8月までを指導計画作成に充て、9月から主に担任が授業を行うこととして作成したものです。「好きな果物を言おう」と「買い物をしよう」は、英語ノート以外から選びました。果物は、メロン、バナナ、オレンジなど、児童が既に知っている表現が多いことから選んだトピックです。「買い物をしよう」は、あいさつや数字、果物の表現を使う活動ができることから設定しました。指導に当たっては、「小学校英語活動15」を活用することもできます。例えば、「数で遊ぼう」は、p.14～p.25を利用して数を表す表現に慣れ親しませます。「好きな果物を言おう」では、p.50～p.57を利用して色の表現に慣れ親しませ、その後、p.26～p.29を利用して果物の表現を、数の表現と関連させて導入します。

考えてみましょう

英語ノートの指導資料に年間指導計画が掲載されています。児童の興味・関心を考えたとき、この年間指導計画にあるトピック以外にも取り上げたいトピックはありませんか。それは、どのようなトピックですか。(p.65のワークシートも利用できます。)

例 2 第 6 学年 年間 35 時間

月	単元名	活動概要 囲み数字は、各時間の主な活動	扱う英語表現
4	あいさつ	A L Tとあいさつをし、A L Tの国のことに興味を持つ。	Nice to meet you. など
	カレンダーを作ろう	月や日にちの表現を知る。 友達の誕生日やいろいろな学校行事が何月にあるか聞く。 好きな学校行事トップ5を入れたカレンダーを作り、好きな学校行事を発表する。	first, second, ... January, February, ... When is your birthday? school trip, sports day, ...など
5	修学旅行に行こう	曜日の言い方を知る。 修学旅行に行くときの乗り物や場所、建物の表現を知る。 修学旅行のスケジュールを英語で言い、自分がしたいことを言う。	Sunday, Monday, ... train, by train, temple, ... on Tuesday, go to... など
	できることを紹介しよう	できること、できないことを表す表現を知る。 自分ができることをジェスチャーで伝える。 自分ができること、できないことを言う。	I can... I can't... play the piano, ... Can you...? など
6	もうすぐ夏休み	夏に関係することやものの表現を知る。 夏休みにしたいことを聞いたり言ったりする。	swimming, camping, ... I want to enjoy... Do you want to enjoy...? など
	夏休みは何をしたのかな	夏に関係することやものの表現を復習する。 夏休みに何をしたら聞いたり言ったりする。	I enjoyed ... Did you enjoy...? など
7	アルファベットで遊ぼう	アルファベットの大文字の読み方を知る。 アルファベットの文字の読み方を聞いて大文字を認識する。 自らアルファベットの文字を読み、大文字とその読み方を一致させる。	A, B, C ~ Z
	いろいろな文字があることを知ろう	世界のいろいろな文字に興味を持ち、アルファベットの小文字を知る。 アルファベットの小文字の読み方を知る。 アルファベットの文字の読み方を聞いて、小文字を認識する。 新聞広告の中からアルファベットを探す。	a, b, c ~ z
8	道案内をしよう	建物や店の表現を知る。 道案内の表現を知る。 教室に町を作り、道案内ゲームをする。 自分たちの町の地図を使って、町紹介をする。	post office, restaurant, ... go straight, turn left, ... We have two restaurants in our town. など
	行ってみたい国を紹介しよう	いろいろな国について知っていることや調べたことを言う。 行きたい国と理由を言う表現を知る。 友達に行きたい国を聞いたり言ったりする。	America, Australia, ... I want to go to... Where do you want to go? など
9	自分の一日を紹介しよう	1 ~ 60 までの数と時間の表現を復習し、世界の時間を言う。 一日の生活を表す表現に慣れ親しむ。 自分の生活表を作成する。 どのように一日を過ごしているか友達に聞いたり言ったりする。	one~sixty What time is it? at seven o'clock get up, eat lunch, ... など
	将来の夢を紹介しよう	いろいろな職業の言い方を知る。 将来何の職業につきたいかを友達に聞いたり言ったりする。 将来つきたい職業についてグループ内で発表する。	pilot, doctor, teacher, ... I want to be... What do you want to be? など

例 2 は 4 月に月の名前を扱っていますが、1 年間ですべての月の言い方に慣れ親しんでいこうと考えたものです。文字は、英語ノート 6 年生では Lesson 1 で扱いますが、この年間指導計画では 9 月に文字を導入し、児童が卒業するまで継続的に扱う予定です。修学旅行と夏休みは、英語ノート以外から選んだトピックです。

第 4 章 単元計画はどのように作ればよいでしょうか？

ここでは、最初に単元の大まかな枠組みについて説明します。次に、A 小学校を例に取り、二人の先生が一つの単元をどのように作っていくか見ていきます。児童の実態や担任の思いが単元計画に反映されています。教材は、英語ノート 5 年生 Lesson 8 です。

1 授業の進め方の固定

(1) 授業の進め方を固定する

単元計画を立てる際に、授業の基本的な進め方を作成しておく、英語に慣れ親しむためのいろいろな活動をどのようにつなげていくかが考えやすくなります。活動のねらいを明確にし、聞くことから話すことへ段階を踏んだ単元計画を考えましょう。

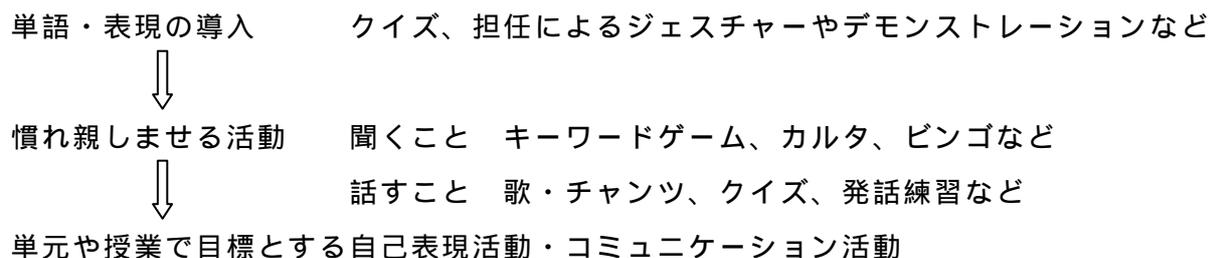
< 単元・授業の進め方例（第 4 時にコミュニケーション活動を行う場合） >

第 1 時	第 2 時	第 3 時	第 4 時
あいさつ	あいさつ	あいさつ	あいさつ
雰囲気を作る活動	雰囲気を作る活動	雰囲気を作る活動	雰囲気を作る活動
単語・表現の導入	復習	復習	復習
慣れ親しませる活動 聞くこと	単語・表現の導入 慣れ親しませる活動 聞くこと 話すこと	単語・表現の導入 慣れ親しませる活動 聞くこと 話すこと	慣れ親しませる活動 コミュニケーション活動（単元の目標活動）
振り返り	振り返り	振り返り	振り返り

(2) いろいろな活動を組み込む

単元や授業の流れが決まったら、その流れの中にいろいろな活動を組み込みます。児童がいろいろな活動を通して同じ表現を何度も繰り返し使うようにしましょう。

< 自己表現活動・コミュニケーション活動までの大まかな流れ >



2 単元計画の方向性

(1) A小学校の5年生児童の様子

日ごろの児童の様子に基づいて、授業をどのように進めていくかを考えます。A小学校の5年生児童の様子は、次のとおりです。

A小学校は英語活動を始めて2年目である。5年生は、4年生のときに英語活動を14時間経験した。

児童は明るく、休み時間に気の合う友達でグループを作り、楽しそうに話をしている姿がよく見られるが、クラスとしてまとまっているとは言えない。

多くの子と進んで会話をしたり、人前で話したりすることは苦手と感じている児童が多い。

児童が好きな英語の活動はゲームや歌などの活動的なもので、授業で導入した表現をすぐに使いたがる。

私は、英語活動を指導した経験がありませんが、楽しい授業を通して、英語も好きな児童になってほしいと思っています。



私は、子どもたちがクラスのみならず積極的にかかわりを持ってほしいと願っています。子どもたちは活動的な学習が好きなので、その中でみんなとかかわりを持てるようにしたいと考えています。

(2) 教材の内容

英語ノート5年生のLesson 8「時間割を作ろう」で扱われている英語表現や活動内容を見ましょう。「英語ノート指導資料第5学年」も利用しましょう。

扱う英語表現 (英語ノート指導資料第5学年 Lesson 8を基に作成)

曜日 Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday

教科 subject Japanese English math science social studies music P.E.
arts and crafts home economics

表現 What subject do you like? I study... on Monday



Lesson 8で扱っている教科は9教科です。道徳、総合的な学習の時間などはありません。私は、学習している教科などはすべて扱いたいと考えています。教科を限定すると「この教科は英語で何て言うの?」という質問が出るでしょう。子どもたちが言いたいことを言えるようにする方がよいと思います。ただし、単語数が増えるので、例えば、最初は自分の好きな教科だけ言えるようにしましょう、のような配慮が必要です。

活動内容 (英語ノート5年生 Lesson 8 のページ順に並べてあります。)

- ・ Let's Listen 「CDを聞いて、どの教科か考えて、 に番号を書こう。」
- ・ Activity 1 「CDを聞いて、その教科書を見つけよう。」
- ・ Activity 2 「ジェスチャーを見たり、ヒントを聞いたりして、どの教科か考えよう。」
- ・ Let's Play 1 「何曜日の時間割か考えよう。」
- ・ Let's Sing 「歌ってみよう。 Sunday, Monday, Tuesday」
- ・ Let's Play 2 「カードを使ってやってみよう。 ビンゴゲーム」
- ・ Let's Listen 「CDを聞いて、時間割を完成しよう。」
- ・ Let's Listen 「CDを聞いて、先生と教科とを線で結ぼう。」
- ・ Activity 「グループで話し合っ、自分たちの時間割を作り、発表しよう。」



CDを聞いたり、ビンゴをしたり、個人で行う活動が多いですね。ジェスチャーは面白そうですが、子ども同士がかかわりを持つ活動をもっと入れたいですね。Lesson 8の最後に行う、時間割を発表するという“Activity”は、指導資料の授業事例ではクイズ形式になっています。

最初に“Let's Listen”でCDを聞いて、どの教科かを聞き取る活動がありますが、自分のクラスの児童には難しいかもしれません。最初の“Let's Listen”は、事前に教科を表す表現に慣れ親しませてから扱いたいと思います。



(3) 単元計画の方針確認

二人の先生は、児童の様子や教材の内容を踏まえて、次の方針で授業を計画することにしました。

主な活動は「グループで話し合っ、自分たちの時間割を作り、発表しよう。」にする。発表できるように、曜日、教科を表す表現に十分に慣れ親しませる。

単語数が多いことや発表活動をすることを考慮して、次の指導を念頭に単元計画を作る。

- ・ 第1時の活動では、好きな教科だけ言えればよい。
- ・ 教科を表す表現は、何回も繰り返し聞かせ、第1時から発音をして慣れ親しむ。

児童同士がかかわりを持つゲームを行う。

十分な発話練習を積んでから発表活動ができるように、個々の活動内容や順序・形態に配慮する。



第1時で単語を導入したら、“What subject do you like?”という表現を使って好きな教科を尋ねるゲームをするのはどうですか。“What...do you like?”という表現はすでに扱っているので児童もすぐに subject を使った表現に慣れ親しむでしょう。また、好きな教科だけ言えればよいという方針にも合います。

3 単元計画の作成

(1) 単元の目標設定

A先生とB先生は英語ノートの指導資料を参考にして、単元の目標を「英語で自分たちが作った夢の時間割を伝える」こととしました。

(2) 評価規準の設定

「英語ノート指導資料第5学年」の **Lesson 8** の授業事例には、次のような評価の観点と方法が挙げられています。

第1時

- ・ALTの母国や中国，オーストラリアなど日本以外の国の小学校でどのような教科が学習されているのかを興味を持って聞く。<行動観察>
- ・教科を表す語を聞いて理解する。<行動観察>

第2時

- ・教科名を聞いて理解し，ゲームに積極的に参加する。<行動観察>

第3時

- ・作成した時間割をもとにオリジナル曜日時間割を伝える。<行動観察>

第4時

- ・クイズに積極的に参加している。<行動観察>
- ・自分たちの作成した時間割を発表する。<行動観察>
- ・その理由を日本語でもよいから相手に伝える。<行動観察>



第1時は、児童がお互いにかかわりを持つことをねらいとして、好きな教科を尋ねる活動をしたいので、「積極的に友達とかかわりを持っている」という評価規準を設定しませんか。

こんなに行動観察で英語活動の評価をする自信がありません。評価項目の数や評価方法について検討しましょう。



以上の話合いを経て、二人の先生は、活動の内容や評価規準を見直して、次の評価計画を作りました。

第1時 積極的に友達とかかわりを持っている。<行動観察>

第2時 教科を表す語を聞いて理解する。<英語ノート提出>

第3時 教科を表す語を聞いて理解する。<英語ノート提出>

作成した時間割を基にオリジナル曜日時間割を伝える。<行動観察>

第4時 クイズに積極的に参加している。<行動観察>

(3) 活動の決定

英語ノート5年生及び指導資料第5学年の **Lesson 8** に載っている活動 (☆印) から幾つか選び、そこに、二人の先生で考えた活動 (★印) を組み込みました。英語ノート **Lesson 8** に載っている活動については、p.12 を参照してください。

☆「**Let's Sing** 『歌ってみよう。 **Sunday, Monday, Tuesday**』」

ねらい：曜日を表す表現に慣れ親しむ。

- ①担任は、各曜日をいろいろな色で書いた曜日絵カードを準備する。
- ②第1時は、絵カードを見せながら発音を確認した後で歌を歌う。
- ③第2時以降は、1回目は普通に歌い、2回目からは、いろいろな歌い方をする。

★教科を表す英語を知る活動 「“**What's this?**” クイズ」

ねらい：教科の表現を知る。

- ①担任は、掲示用の教科書表紙カードを準備する。
- ②担任は、教科書表紙カードを見せて “**What's this?**” と質問をする。
- ③児童が答えたら、担任はその教科を英語で発音して児童に繰り返させる。
- ④2教科ごとに練習をしたら、一番最初の教科に戻って再度練習をする。

国語 表紙 カード	理科 表紙 カード	図工 表紙 カード	音楽 表紙 カード	日直 <input type="checkbox"/> ○ <input type="checkbox"/> ○	では、また国語に戻って全部言ってみましょう。 What's this?
-----------------	-----------------	-----------------	-----------------	--	--



★教科を表す英語に慣れ親しむゲーム 「『好きな教科は何?』ゲーム」

ねらい：教科を表す表現や好きな教科を尋ねる表現に慣れ親しみ、友達とかかわりを持つ。

- ①児童は好きな教科を一つ決め、教室を歩き回って友達に好きな教科を尋ねる。
- ②好きな教科が同じなら行動を共にし、好きな教科が同じ友達をたくさん見付ける。

☆「**Activity 2** 『ジェスチャーを見たり、ヒントを聞いたりして、どの教科か考えよう。』」

ねらい：教科を表す表現や好きな教科を尋ねる表現に慣れ親しむ。

- ①『好きな教科は何?』ゲーム』の終了時にできているグループで行う。
- ②担任から指名されたグループに、全員で “**What subject do you like?**” と尋ねる。
- ③指名されたグループはみんな “**I like**” と言って、好きな教科をジェスチャーで表し、他の児童は、それが何の教科かをあてる。
- ④好きな教科が同じ友達を見付けられなかった児童には、一人でもみんなの前でジェスチャーをするか確認し、ためらうようなら無理にジェスチャーをさせない。

★教科を表す英語を確認する活動 「教科チャンツ」

ねらい：教科を表す表現や「～を勉強する」という表現に慣れ親しむ。

- ①担任は、教科書表紙カードを黒板に掲示し、リズムに乗りながら順に発音をする。
- ②児童はリズムに乗りながら担任が言う表現を繰り返す。

教科チャンツ ※ ♡ は手拍子 []内は児童が繰り返す部分 Clap your hands and repeat. One, two, three, go. Japanese ♡ ♡ [Japanese] ♡ ♡ math ♡ ♡ ♡ [math] ♡ ♡ ♡

教科チャンツ I study 編 ※ ♡ は手拍子 []内は児童が繰り返す部分 ^ はつながる音 × は発音しない音 担任：火曜日の時間割チャンツをしましょう。 Clap your hands and repeat. One, two, three, go. I study math. ♡ ♡ [I study math.] ♡ ♡ I study Japanese. ♡ [I study Japanese.] ♡ I study arts and crafts. ♡ [I study arts and crafts.] ♡
--

★教科を表す英語を復習する活動 「教科カルタ」

ねらい：教科を表す表現や「～を勉強する」という表現に慣れ親しむ。

- ①英語ノートと巻末の教科絵カードを机の上に並べさせる。
- ②最初に練習として一人で行わせ、次はグループで行う。
- ③担任が“I study... .”と言い、児童はその教科絵カードを取る。
- ④始まりのタイミングを合わせるために、両手を頭の上に置くように指示をする。

☆「Let's Play 2 『カードを使ってやってみよう。ビンゴゲーム』」

ねらい：教科を表す表現や「～を勉強する」という表現に慣れ親しむ。

- ①英語ノート巻末の教科絵カードを Lesson 8 のビンゴシートの上に並べさせる。
- ②担任が“I study... .”と言い、児童はその教科絵カードを裏返す。
- ③できるだけたくさんビンゴを作らせる。

☆「Let's Listen 『CDを聞いて、時間割を完成しよう。』」

ねらい：教科を表す表現に慣れ親しむ。

- ①1回目は、CDを聞かせながら、時間割を完成させる。
- ②2回目は、担任が時間割を言うのを聞かせながら、時間割を完成させる。

☆「**Let's Listen** 『CDを聞いて、先生と教科とを線で結ぼう。』」

ねらい：教科を表す表現に慣れ親しむ。

CDを聞いて、英語ノートに描かれている先生の絵と教科を線で結ばせる。

★お気に入り時間割作成ゲーム

ねらい：時間割クイズをする表現に慣れ親しむ。

①英語ノート **Lesson 8** の時間割表と巻末の教科絵カードを使って時間割を作らせる。

②担任は、児童にペアを作らせて、次に示す活動内容を説明する。

ペアでじゃんけんをする。担任が曜日と何時間目かを言うので、じゃんけんが勝った児童は、その時間に何の教科を勉強するかを質問し、負けた児童はジェスチャーで答える。

③児童は、お気に入り時間割について質問をしたり、ジェスチャーで答えたりする。

担任：**Next. Wednesday. The second period. Let's start.**

児童A：**What subject do you study?**

児童B：(水曜日の2時間目に勉強する教科をジェスチャーで表す。)

児童A：**P.E.**

児童B：**Yes. I study P.E.**

☆「**Activity** 『グループで話し合っ、自分たちの時間割を作り、発表しよう。』」

ねらい：今までの練習を基に、自分たちが作った夢の時間割を英語で伝える。

①グループを作り、自分たちの夢の時間割を作らせる。その際、すべて同じ教科にならないように、同じ教科は一日2時間までと決めておく。

②担任はグループを指名して、「○曜日○時間目」と英語で言う。児童は、全員で“**What subject do you study?**”と指名されたグループに尋ねる。

③指名されたグループは全員で“**I study**”と言い、好きな教科をジェスチャーで伝える。

④正解が出たら、グループ全員で“**Yes. I study... .**”と言う。

4 単元計画例

二人の先生は、英語ノート5年生 **Lesson 8** 「時間割を作ろう」を、次のように行うことにしました。p. 38に掲載した第1時の授業の流れも参照してください。

単元目標 英語で自分たちが作った夢の時間割を伝える。

評価計画

第1時 積極的に友達とかかわりを持っている。<行動観察>

第2時 教科を表す語を聞いて理解する。<英語ノート提出>

第3時 教科を表す語を聞いて理解する。<英語ノート提出>

作成した時間割を基にオリジナル曜日時間割を伝える。<行動観察>

第4時 クイズに積極的に参加している。<行動観察>

扱う英語表現

曜日 **Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday**

教科 **subject Japanese English math science social studies music P.E.
arts and crafts home economics *morals *integrated studies
*homeroom activities**

*は、新たに加えた語句

表現 **What subject do you like? I like... What subject do you study? I study...**

教材・教具

英語ノート、掲示用曜日絵カード、掲示用教科書表紙カード、教科絵カード

※☆英語ノート・指導資料に載っている活動 ★それ以外の活動

第1時		第2時		第3時		第4時	
活 動 気 を 作 る	英語のあいさつ	活 動 気 を 作 る	英語のあいさつ ☆歌	活 動 気 を 作 る	英語のあいさつ ☆歌	活 動 気 を 作 る	英語のあいさつ ☆歌
導 入	☆歌 ★“What’s this ?” クイズ	復 習	★教科 チャンツ ★教科カルタ	復 習	★教科 チャンツ ☆時間割を完成 しよう。	復 習	★教科 チャンツ
慣 れ 親 し ま せ る 活 動	★「好きな教科 は何？」ゲー ム <行動観察> ☆教科名あてジ ェスチャーク イズ	慣 れ 親 し ま せ る 活 動	☆カードを使っ てやってみよ う。ビンゴゲ ーム ☆CDを聞いて、時間割を 完成しよう。 <英語ノート 提出>	慣 れ 親 し ま せ る 活 動	☆CDを聞いて、先生と教 科とを線で結 ぼう。 <英語ノート 提出> ★お気に入り時 間割作成ゲー ム <行動観察>	慣 れ 親 し ま せ る 活 動	☆グループで話 し合って、自 分たちの時間 割を作り、発 表しよう。 <行動観察>
振 り 返 り	振り返り あいさつ	振 り 返 り	振り返り あいさつ	振 り 返 り	振り返り あいさつ	振 り 返 り	振り返り あいさつ

担任が英語活動の指導計画にかかわる重要性

新しい小学校学習指導要領では、指導計画の作成や授業の実施は、担任又は外国語活動の担当教師が行うことになっています。担任が指導計画に積極的にかかわることは、児童の実態を踏まえた授業を行うことでもあり、それが結果として英語活動を豊かなものにします。次の例は、A先生が積極的に指導計画にかかわった事例です。教材は、英語ノート 6年生 **Lesson 6** 「行ってみたい国を紹介しよう」です。

A先生は、英語ノート 6年生 **Lesson 6** の教材研究をしているときに、「単元の最初に、いろいろな国のことを聞き取る活動があるが、それらの国について知識が少ない子どもたちにとっては唐突で難しい。」と考えました。

A先生は英語ノート指導資料第6学年の授業案例に沿って授業をする予定でしたが、以上の判断に基づいて指導計画を変更して、**Lesson 6**に入る前に次の活動を行うことにしました。

- ・ **Lesson 6**には国旗の絵があるので、色・形・数を表す英語の表現を復習する。
- ・ いろいろな国について調べさせたり、知っていることを発表させたり、地図で場所を確認したりする。
- ・ A L Tに来てもらうと、文化や言語についておもしろいコメントをもらえるかもしれないので、A L TとのT T（ティーム・ティーチング）の際に以上の活動を行う。

A先生は、以上の活動をT Tで行ってから、指導資料の授業案例に沿って **Lesson 6**の授業をしました。**Lesson 6**がすべて終わった後で、A先生とA L Tは次のような感想を持ちました。

A先生：いろいろな国について児童が知っていることは少ないので、事前にいくつかの国について調べたことや知っていることを発表させたのは良かった。

A L T：単元の最後の授業で行ってみたい国と理由を児童に発表させたが、他のクラスと比べて、A先生のクラスでは国の名前や理由がたくさん出てきた。

A L Tの感想から読み取れるのは、児童は、いろいろな国について調べて、知っていることを発表しながら知識を共有することで、伝えたい内容を持ったということです。そのことが、単元の最後の授業での豊かな言語活動につながっていきました。そして、今回の豊かな言語活動が行われるきっかけになったのは、A先生が教材研究をしているときにした判断でした。このような判断は担任だからこそできるものです。

第5章 評価についてはどのように考えればよいでしょうか？

評価は、児童の学習の様子をとらえ、次の学習に生かすためだけでなく、何をどこまで行うかを明確にするためにも適切に行う必要があります。評価方法には、行動観察、発表観察、ワークシートなどがあります。

1 評価の観点

英語活動の評価は、「外国語活動」の目標にある三つの柱を基に行います。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める

外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る

外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる

（文部科学省 小学校外国語活動研修ガイドブック p.48）

2 評価規準の設定

（1）小学校外国語活動研修ガイドブックから

表現の定着やスキル向上にのみ視点を置いた評価規準にならないようにします。「小学校外国語活動研修ガイドブック」（p.48）に掲載されている評価規準例は、次のような表現で表されています。

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深める

言語や文化に関する事項について、「知ろうとする」、「興味を持って聞こうとする」、「理解しようとする」など

外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る

コミュニケーションに関する事項について、「積極的に伝えようとする」、「積極的に相手にたずねたり答えたりする」、「楽しさを感じ取る」、「多様な表現方法を習得しようとしている」など

外国語を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませる

音声や基本的な表現に関する事項について、「言う」、「歌おうとしている」、「音声の違いに気付く」、「英語で意識して発音しようとする」、「聞いて理解する」など

（2）実践校の評価規準例

英語活動の実践校の評価規準を幾つか紹介します。評価規準を作成する際の参考にしてください。

「外国の文化や伝統に興味・関心を持って活動している。」

「ゲームを通して友達とかかわりながら楽しく活動している。」

「自己紹介の表現を理解している。」

「天気を表す表現を使っている。」

3 評価を記述するときの留意点

英語活動の評価は、文章による記述で行います。活動内容を書くだけにならないように、次の点を意識するとよいでしょう。

児童は、言語や文化について

児童は、コミュニケーションについて

児童は、英語の音声や基本的な表現について



どのような知識を得たか。

どのような理解をしたか。

どのような態度を身に付けたか。

考えてみましょう

英語活動の授業中に行動観察で見られた児童の姿を、それぞれどのような観点からどのように評価すればよいか考えてみましょう。

例 1 担任が、「走り幅跳びは英語で何と言うのでしょうか?」と尋ねたとき、ある児童が、「跳ぶは jump だから、えーと、dash jump!」と答えた。

例 2 担任が活動内容を英語で説明したところ、ある児童が「何を言っているか分からない。」と発言した。担任が再度ジェスチャーを交えながら英語で説明すると、「こうすればいいの?」と活動内容の確認をしてから活動を始めた。

例 3 好きなスポーツを尋ねようという活動の中で、ある児童は “What sports do you like?” という表現を使ってたくさんの友達に質問をしているが、英語がたどたどしい。

例 4 「好きなものは何?」というトピックで A L T と T T で授業をした後、ある児童が A L T のところへ来て質問をした。

児童 : Dog like?

A L T : Do I like dogs? Yes. I like dogs. Do you like dogs?

児童 : Yes.

例 5 担任が児童に一人ずつ “Do you like...?” という質問をしたとき、みんな英語で “Yes”、“No” と答えたが、一人だけ首を横に振って答えた。

例 6 計算の表現を学習する際、A L T が割り算は “divided by” と言うと、多くの児童から笑い声があり、この表現の音声に興味を示した。A L T が繰り返し発音すると、児童もにこにこしながら大きな声で繰り返していた。

コラム

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度とは

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と密接に結び付くものに、自分の英語力の不足を補いながら意思を伝えようとする「方略的能力」と呼ばれるものがあります。自分の英語力不足を補ってコミュニケーションをしようとする能力であることから、外国語学習の初期から重視すべきものと考えられています。

方略的能力は、例えば、次のような方法を用いて意思を伝えようとする能力を指します。

- ・ 単語や表現が思い浮かばないときに、ジェスチャーで意思を伝えようとする。
- ・ 単語や表現が思い浮かばないときに、知っている言葉を使って、遠回しな言い方をしたり、知っている単語を組み合わせて造語をしたりして、意思を伝えようとする。
- ・ 聞いていて分からないときは、もう一度言ってくださいと頼んだり、内容を確認したりする。

20ページの例を、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度から考えてみましょう。

例1は、児童が自分の知っている言葉を使って伝えようとしている方略的能力の例と考えられます。知っている単語を組み合わせる造語に当たります。

例2は、児童が分からない内容を確認しているという点では方略的能力の例と考えることもできるでしょう。英語活動に興味を持ち、参加しようとする意欲が見られる、と考えてもよいでしょう。

例3は、話す英語がたどたどしいということですが、たどたどしさは英語を使って話そうとする態度の表れです。スキルの向上をねらいとしない小学校英語活動だからこそ、たどたどしい英語で何かを伝えようとする意欲を大切にしましょう。

例4は、英語の語順が間違っています（日本語の影響を受けているようです）が、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が明確に見て取れる例です。また、ALTの英語を理解していることから、好きなものを言う英語表現に慣れ親しんでいることも分かります。

例5は、児童が担任の言った言葉に反応しているのでコミュニケーションは成立していることが分かります。しかし、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度という観点からは、判断は迷うかもしれません。担任が発した英語の質問に反応しているので、英語の音声や表現に慣れ親しんでいることは分かります。

例6は、児童が“divided by”という英語表現の音声に関心を持ったことから、言語や文化の観点から評価を考えることができます。積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度という面から見ると、英語を注意深く聞いていたから英語の音声のおもしろさに気付いたと考えることもできます。

英語活動の中で出てくる、いろいろな児童の応答や反応を注意して観察し、所属校の先生方と情報交換をして、どのように評価するか共通理解を図りましょう。

第6章 英語活動ではどのような点に気を付ければよいでしょうか？

英語活動は、英語を「聞くこと」と「話すこと」が主な活動です。聞く活動と話す活動の場面設定などに気を付けましょう。

1 「聞くこと」と「話すこと」

(1) 英語をたくさん聞かせる

英語活動では、様々な工夫をしながら英語をたくさん児童に聞かせることを心がけましょう。

新しい表現を導入するときは、絵カードや実物を活用し、ジェスチャーやデモンストレーションを交えながら、英語を繰り返し聞かせて意味を推測、理解させる。

児童が理解した表現は、様々な活動の中で繰り返し聞かせて慣れ親しませる。

英語をたくさん聞かせる指導例 (トピックは野菜)

単語の導入：野菜絵カード(「小学校英語活動15」付属CDから)を使った単語の導入

担任：(絵カードを半分隠して) What's this?

児童：ニンジン!

担任：Yes. This is a carrot. Do you like carrots, san?

児童：Yes.

担任：Good. Do you like carrots, san?

児童：No.

担任：Oh, you don't like carrots. Who doesn't like carrots?

慣れ親しむ活動：野菜キーワードゲーム、野菜カルタなどの英語を主に聞く活動

担任：Let's play the vegetable bingo.

(2) 児童が理解できる英語を聞かせる

児童にとって身近な表現や聞いたことがある表現を活用したり、慣れ親しんだ既習の表現を繰り返し聞かせたりしましょう。そうすることで、担任が話している英語の意味や使い方を推測しやすくなります。視聴覚教材などを使って児童の注意を引き、児童が理解できる英語を聞かせると、次のような反応が期待できます。

担任が何を言っているか理解しようとして担任を見る。

担任が話す英語の内容を推測し、だんだん分かってくる。

担任が言う英語に対して言葉や動作で反応を返す。

担任が話す英語に児童の注意を向けさせて、英語を注意深く聞いて理解しようとする態度や自分も英語を使ってみようという意欲を養いましょう。

(3) 十分な発話練習をする

発話を伴う活動をする場合は、事前に聞く活動を行いながら発話に必要な表現を繰り返し聞かせることが大切です。この間、発話を強要しないことに留意しましょう。発話練習は、英語を話すのが恥ずかしいという気持ちやみんなの前で失敗したくないという気持ちに配慮して、全体での練習、グループ、ペア、個人へと形態を変えながら、児童が自信を持って活動に取り組めるように十分に行います。

2 自然なコミュニケーション場面の設定

(1) 英語を使う場面を設定する

単なる繰り返し練習だけでは、英語を使う場面を設定したことにはなりません。担任と児童及び児童同士で、英語を用いてコミュニケーションをする場面を設定しましょう。クイズ、ゲーム、ごっこ遊びなどは、児童が楽しみながら英語に触れることができるだけでなく、自分の考えや思いを伝えるコミュニケーション活動でもあります。このような活動を活用して、児童が英語を聞いたり、話したりする場面をたくさん設定しましょう。また、ALTが教室にいと、英語を使うことが自然なものになります。

(2) 自然なコミュニケーションを意識する

普段のコミュニケーションでお互いに情報を伝達するという事は、両者の間には何か相手の知らないことがあり、それについて情報を交換するという事です。

担任：**Hello. How is the weather today?**

児童：**Cloudy.**

担任：**Good. What day is it today?**

児童：**Friday.**

この例では、担任が児童に今日の天気や曜日を尋ねています。もし教室の窓から外を見て担任も児童もすぐに天気が分かるなら、そして担任が曜日を知っているなら、このやり取りは自然なコミュニケーションとは言えないでしょう。ただし、質問の目的が児童に天気や曜日を表す表現に慣れさせることであれば、この例のような質問をすることも考えられます。

話題を天気に向けたたり、担任が知らないことを児童に尋ねたりすることで、“**How is the weather today?**”という質問を自然なコミュニケーションにすることができます。例えば、児童に、日本全国の天気予報が載っているプリントを配り、“**It is fine in Kanagawa today. How is the weather in Hokkaido?**”と質問します。また、“**Who had a birthday this month? How was the weather on your birthday?**”と質問することもできます。

このような工夫をすることで、実際のコミュニケーションに近い状態で、英語の音声や基

本的な表現に慣れ親しませることができます。



6月に英語で自己紹介をする活動を考えていました。しかし、自然なコミュニケーションという点から考えると、その頃には、児童はお互いに名前や好きなものを知っているかもしれません。工夫をしてみます。

工夫1 「人物カードを用いて『なりきり』自己紹介をする」

第1時 自己紹介の表現や好きなものを言ったり尋ねたりする表現を知る。

第2時 ①担任は、名前、好きな食べ物とスポーツを書いた人物カードを1枚渡す。
(同じ人物カードを2枚ずつ用意しておく。)

②児童は、4人グループを作り、自分の人物カードに書かれた人になりきって名前と好きな食べ物やスポーツを言って自己紹介の練習をする。

③児童は、教室内を歩き回り、自己紹介をしながら自分と同じカードを持っている友達を探す。

工夫2 「自分たちの小学校の先生を紹介する」

第1時 ①自己紹介の表現や好きなものを言ったり尋ねたりする表現を知る。

②児童はグループに分かれて、休み時間にいろいろな先生にインタビューをして、名前と好きなものを聞き、デジタルカメラで先生の写真を撮ってくる。

第2時 プロジェクターで写真を映して、先生紹介をする。

先生になりきって自己紹介をする形式にすれば、“**My name is... .**”、“**I like... .**”という表現を用いて紹介できるので、三人称単数現在の“**s**”という文法面の問題も考えずにできます。「小学校英語活動15」の「友だちや先生の好きなものは？」(p. 46)を参考にしました。

(3) 言いたいことを伝える表現を選ぶ

英語でコミュニケーションを図る楽しさを児童が知る上で、自分の言いたいことが相手に伝わる体験をさせることは重要です。そのためには、ある程度の表現に慣れ親しませておくことが必要です。例えば、食べ物の好き嫌いを言うコミュニケーション活動を行う場合は、“**What food do you like?**”、“**I like... .**”という表現のほかに、いろいろな食べ物を表す表現を選び、事前にその表現に慣れ親しませておくことが大切です。そうすることで、自分が言いたいことを伝えるというコミュニケーション場面を作り出すことが期待できます。

3 英語活動に取り組む担任の姿勢

(1) 音声や基本的な表現の扱いについて理解する

英語活動には、児童にこれだけの英語表現を覚えさせなくてはいけない、という目標はありません。また、小学校で扱った表現は、中・高等学校でも出てくることから、表現を覚えるのはそのときまで待つてよいのです。小学校段階では、同じ表現をいろいろな活動で繰り返し扱うことで、体験的に英語の音声や基本的な表現に慣れ親しませていくことが大切です。

(2) 担任も英語活動を楽しむ

担任も、次のような姿勢を持つことで児童と一緒に英語活動を楽しむ姿勢を持つようにしましょう。

- 児童と一緒に英語を学ぼうという気持ちを持つ。
- 児童と一緒に活動に参加して楽しむ。
- いろいろな工夫をすることを楽しむ。
- 小学校ならではの英語の授業を目指す。
 - ・児童の興味・関心を考慮した教材の開発
 - ・各教科で学習した内容を扱った活動
 - ・ダイナミックに児童を動かす活動形態 など

英語を学ぶ学習者としての姿と積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする姿を児童に示したいですね。



考えてみましょう

次のような点に注意し、英語活動のねらいや進め方、指導技術について確認をしましょう。

- 「聞くことができる」「話すことができる」というスキルの向上だけを目標とした授業にならないように、授業の目標や評価規準を確認している。
- 単語や表現を覚えるための練習、意味の伴わない発話練習などが授業の大半にならないように、自然なコミュニケーションを意識した活動を多く取り入れるようにしている。
- いつも同じ活動ばかりにならないようにしている。
- 間をとって児童の様子を確認したり、児童の発言やつぶやきを大切にしたりしながら、授業を進めている。
- 自分が英語を話すことに気を取られすぎて、児童の様子が目に入らなくならないように気を付けている。

第7章 どのようにいろいろな活動を行えばよいでしょうか？

英語活動では、様々な活動を行うことが考えられますが、どのような活動を行う場合でも、活動のねらいを持って段階を踏んだ授業展開をすることが大切です。

1 いろいろな活動

次の表は、授業の流れに沿って活動とそのねらいを例示したものです。単元や授業を計画する際の参考にしてください。授業の進め方については p. 10 を参照してください。

※ *は主に担任が行う活動

流れ	活動	活動のねらいの例
雰囲気を作る活動	英語のあいさつ	英語活動へ切り替える。
	簡単な英語のやり取り	英語を聞いたり、話したりする。既習事項を確認する。
	歌・チャンツ	英語の発音やリズム、音の特徴、表現に慣れ親しむ。表現の復習をする。気分転換を図る。活動と活動をつなぐ。
	クイズ	英語を聞いたり、話したりする。推測する。気分転換を図る。活動と活動をつなぐ。
単語や表現を導入する活動	歌、チャンツ	英語を聞く。表現を知る。
	クイズ	英語を聞く。表現を知る。意味を推測、理解する。
	*デモンストレーション	英語を聞く。表現を知る。意味を推測、理解する。
	表現の繰り返し練習	聞いた英語を繰り返して英語の音声に慣れ親しむ。
慣れ親しませる活動	*デモンストレーション	表現を知る。活動内容を知る。
	歌・チャンツ	英語の音声や表現に慣れ親しむ。
	キーワードゲーム	英語を聞く。英語を聞いて、反応する。
	カルタ	英語を聞く。英語を聞いて、素早く反応する。
	ビンゴ	英語を聞く。英語を聞いて、反応する。
	T P R (全身反応学習)	英語を聞く。英語を聞いて、素早く反応する。
	クイズ	英語を聞いたり、話したりする。推測する。
	表現の繰り返し練習	聞いた英語を繰り返して英語の表現に慣れ親しむ。
	インタビューゲーム	英語を聞いたり、話したりする。かかわりを持つ。
	ごっこ遊び	英語を聞いたり、話したりする。かかわりを持つ。
寸劇・スキット	英語を聞いたり、話したりする。かかわりを持つ。	
振り返り	*担任からの講評	活動に取り組む児童の意欲を高める。ねらいを確認する。
	気付いたことの発表	活動を振り返り、気付いたことや感じたことを共有する。
	振り返りシートやノートへの記入	活動を振り返り、気付いたことや感じたことを確認し、記録する。

(景浦 2007 p. 45、p. 76～p. 80、吉田 2008 を参考に作成)

2 いろいろな活動の内容

(1) 英語のあいさつ

英語であいさつすることは、英語活動の授業が始まることを伝えるだけでなく、担任が英語を使おうとする態度を児童に示すことにもなります。ALTとのTTをするときは、下のようないいさつをすれば、担任がALTと積極的にコミュニケーションを図ろうとしている態度を児童に示すことができます。

担任 : **Hello, everyone. Hello, [ALTの名前] sensei.**

ALT : **Hello, [担任の名前] sensei. Hello, everyone.**

(2) 簡単な英語のやり取り

授業のウォーミングアップとして行います。授業を始める雰囲気を作ったり、既習事項の確認や日常的に使用する英語に慣れ親しませるために行います。児童が挙手や日本語で応答してもよいのです。英語で答えることを強要しません。児童が日本語で応答した場合は、担任が英語で応じて、英語を聞かせることも考えられます。

担任 : **Are you hungry? Are you hot? Who is tired?**

児童 : (手を挙げる。)

担任 : **What did you eat this morning?**

児童 : ごはん。

担任 : **Oh, you ate rice. Me, too. / Oh, rice. Me, too.**

(3) 歌

歌は、いろいろなねらいで活用することができます (p. 26 の表参照)。歌詞に繰り返しが多く、覚えやすいメロディーの歌を選ぶとよいでしょう。歌詞の意味が視覚教材やジェスチャーなどで伝えられるものだと、歌うだけでなく他の活動と組み合わせることもできます。いろいろな変化をつけて歌うと、同じ歌でも何度も歌いながら英語に慣れ親しませることができます。「小学校英語活動 15」(p. 14~p. 17) には「セブンステップス」のいろいろな歌い方が紹介されています。

○速く (ゆっくり、低い声で、高い声で、ひそひそ声で) 歌う。

○順番を逆にして歌う。

○担任が指した数字を歌う。

○自分に割り当てられた数字を歌う。

○歌に合わせて身体を動かす。(例 偶数は手をたたく。ある数字のところで鼻に触れる。)

この他にも、歌詞の一部を変える、違うメロディーで歌う、歌詞の一部を歌わずに代わりに手をたたくなどの歌い方もあります。

ミッシング・ゲーム

何がなくなったかをあてるクイズです。黒板に掲示した複数の絵カードの中から1枚を隠して、“What’s missing?”と質問します。

担任：Close your eyes. (児童が目をつぶっている間に黒板に掲示した文房具カードのうち「のり」のカードを隠す。) Open your eyes. Look at the blackboard / chalkboard. What is missing?

児童：のり。

担任：Glue? (隠しておいたカードを見せて) Yes. Glue. Very good.

スリーヒントクイズ

名前が表すように、ヒントを三つ出して児童にそれが何かをあてさせるクイズです。

担任：Let’s play the three-hint quiz. Listen. Hint 1. It is green. Hint 2. It is long. Hint 3. It is a vegetable.

児童：Cucumber.

このような方法もあります

複数のジャンルについて得点に応じたクイズを用意します。児童に問題を選ばせて、解答できれば点数をあげるクイズです。スリーヒントクイズと組み合わせ、グループ対抗で行うことができます。

animal	fruit	sports
1 0	1 0	1 0
2 0	2 0	2 0
3 0	3 0	3 0
4 0	4 0	4 0
5 0	5 0	5 0



Sports 10, please.



野球!

All right. Sports 10. Hint 1. A ball.
Hint 2. Nine.

Great. Baseball. It is baseball.



ジェスチャークイズ

担任がジェスチャーをして、児童にあてさせます。児童にもジェスチャーをさせて、言葉以外の方法でコミュニケーションができることを体験させましょう。ジェスチャーをすることが恥ずかしいと感じる児童がいることを考えて、ペアやグループでジェスチャーをさせるとよいでしょう。

クイズは、形態を工夫すると活動の幅が広がります。担任が児童にクイズを出すだけでなく、児童をペアやグループにして、お互いにクイズを出させたりします。最初は、担任がクイズを出し、児童がやり方や表現に慣れてきたら、グループを作って児童同士でクイズを出させたり、児童を前に出させてクイズを出させたりします。前に出させる場合は、ペアで出させてもよいでしょう。次の例は、果物をトピックにしたクイズの例です。

< 児童が質問する形式のクイズ例 >

児童 A : What do I have?
他の人に見えないように果物カード
を持たせる。
児童 B : Do you have a melon?
児童 A : No.
児童 C : Do you have a strawberry?
児童 A : Yes. (カードを見せる。)

< 児童がヒントを出す形式のクイズ例 >

全員 : Hint, please.
児童 A : It is red.
全員 : Hint, please.
児童 A : It is sweet.
児童 B : Apple.
児童 A : No.
全員 : Hint, please.
児童 A : It is small.
児童 C : Strawberry.
児童 A : Yes.

考えてみましょう

「好きな食べ物を言う」、「できることを言う」、「なりたい職業を言う」というトピックで、児童にクイズを出させる活動を計画します。使用する表現を選びましょう。

(6) ゲーム

ゲームは、英語を聞いたり話したりするだけでなく、児童同士のかかわりを持たせやすい活動です。競わせるだけでなく、少し考える要素を入れるとよいでしょう。児童がゲームの方法や内容を正しく理解できるように事前にデモンストレーションをしたり、必要に応じて一度練習をしたりして児童が安心して活動に取り組めるようにします。

キーワードゲーム

キーワードを決め、担任がその言葉を言ったときに、指示された動作をします。

児童はペアで向き合い、机の上に消しゴムが一つ置いてあります。

担任 : When I say "red," take the eraser. I like... "green." I like... "red."

カルタ

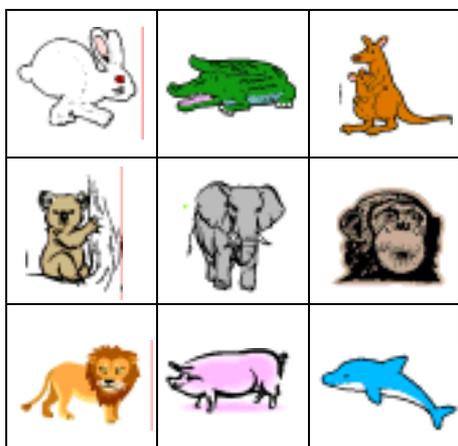
英語でカルタを行います。全員に絵カードが1セット行き渡るようなら、最初に個人で

練習をする機会を持つとよいでしょう。始まりのタイミングを合わせるため、その都度、両手を頭の上に置くように指示します。児童が熱中して危ないようなら、カードを取る代わりに、指さすという方法もあります。あらかじめNGカードを決めておき、終了時にNGカードを持っていた人は負けというルールにしておくと、同じ児童が毎回勝つこともなくなります。

ビンゴ

英語でビンゴを行います。ビンゴ用紙は、扱う表現の数に応じてマスの変えます。絵カードを利用して、児童にマスを埋めさせてもよいでしょう。ダブルビンゴやトリプルビンゴまで続けることで、英語をたくさん聞かせることができます。

<動物ビンゴ(動物絵カードを利用)>



(絵は「小学校英語活動15」付属CDより)

<アルファベットビンゴ>

A	U	F	T
H	I	P	D
V	K	E	M
Z	G	S	X

T P R (Total Physical Response : 全身反応学習)

担任の指示に従い、体を動かす活動です。指示を出しながら、担任も体を動かします。

担任 : When I say, "Sit down", sit down. (実際に座ってみせる。) When I say, "Stand up", stand up. (実際に立ってみせる。) OK? Let's start.

Stand up. Look up. Look down. Hands up.

Hands down. Jump. Stop. Sit down.

Jump をさせる場合は、安全に注意しましょう。

ときどき、わざと指示と違う動きをしてみましょう。担任の動きを目で見て体を動かしている児童がいるはず。その場合は、"Listen." と言って聞くことを強調しましょう。また、"Simon says" と言ってから指示を出したときだけ、体を動かすゲーム方法もあります。

サイモン・セズ・ゲーム

担任：Simon says, “Touch your nose.” Simon says, “... Touch your head.”

Touch your shoulders.

最後の指示は、Simon says で始まっていないので、肩を触らない。

インタビューゲーム

慣れ親しんだ表現を用いて、友達に質問をしたり答えたりします。できるだけ多くの友達に質問をするなどの指示をするとゲーム的な活動になります。カードを1枚ずつ持たせて英語で質問しながら同じカードを持っている人を探すマッチングゲーム、ビンゴシートを持たせて “Do you have a lion?”、“Do you have a kangaroo?” のように質問をさせながら行うインタビュービンゴなど、いろいろなやり方を工夫しましょう。

(7) ごっこ遊び

ロールプレイです。児童に役割を与えて、英語を聞いたり話したりする活動を行います。発話活動を伴うので、事前に必要な表現をたくさん聞かせ、十分な発話練習をします。

「買い物しよう」

買い物ごっこをするための英語表現を導入する。

扱う英語表現をいろいろな活動を通して、繰り返し聞かせて十分な発話練習を行う。

お店の人、客に分かれて買い物ごっこをする。

「気象予報士になろう」

気象予報士になって天気予報をするための英語表現を導入する。

扱う英語表現をいろいろな活動を通して、繰り返し聞かせて十分な発話練習を行う。

気象予報士になって、いろいろな地域・国の天気予報をする。

(8) 寸劇・スキット

慣れ親しんだ表現を使って短く簡単な劇を行います。表現が簡単で繰り返しが多い劇を用いて、事前に寸劇・スキットで使う表現に慣れ親しませます。その後、児童に元の劇をアレンジさせたり、短い劇を作らせたりして発表させます。十分な練習時間を確保しましょう。

(9) 振り返り

授業の最後に児童の良かった点を褒めて、次回の活動に向けて児童の意欲を高めます。また、2～3人の児童に気付いたことや感じたことを発表させて、気付きや思いを児童全体で共有させるのもよいでしょう。

第8章 楽しい英語活動にするにはどのような工夫をすればよいでしょうか？

英語活動をより楽しくするために、いろいろな工夫をして児童に言語や文化に興味・関心を持たせたり、活動に積極的に参加させたりすることが大切です。ここでは英語活動の実践校の先生方がしている工夫を紹介します。

1 「何だろう？」と思わせる工夫

絵カードを用いて英語表現を導入するときの工夫です。“What’s this?” と質問しながら、少しずつ絵を見せていきます。このように絵カードの見せ方を工夫することで、児童は「何だろう？」と思い、見える部分から何の絵かを推測します。推測させるという視点からいろいろな見せ方を工夫してみましょう。



2 驚きや発見を与える工夫

言語や文化に対する興味・関心を持たせる工夫です。児童から「えーっ！なんで？」という声上がるような工夫を考えます。ALTの活用も含めて考えてみましょう。次の例は、言語に対する興味・関心を持たせるために、漢字を題材にしたクイズをしている場面です。

「海」「月」はそれぞれ英語で何と言うかを児童に質問する。

「海月」と書き、それが何のことをかを質問する。

答えは「クラゲ」だと伝える。

「えーっ！」「そうなんだ。」

英語では、jellyfish ということ伝え、英語も言葉を組み合わせると単語が作れることに気付かせる。

「ヒトデ」(「海星」、starfish) も利用できます。

次の例は、文化に対する興味・関心を持たせるために、児童がいろいろな国について知っていることを発表し、それに対してALTにコメントを述べてもらう場面です。

児童にイギリスについて知っていることを発表させる。

ネッシー！

ALT(イギリス出身)が「ネッシーがいるのはEnglandではなく、Scotlandです。」と言う。

「えーっ！」「なんで？」

担任は、地図で二つの地域の位置を確認し、「EnglandとScotlandについて今度調べよう。」と言う。(後日、イングランドとスコットランドの違いを扱う。)

3 体感させる工夫

数や単位 (meters) の言い方に慣れ親しませるときに行った工夫です。ひもを使って走り幅跳びの世界記録 (2009年1月現在の走り幅跳びの世界記録は8m95です。) を児童に示し、児童に興味・関心を持たせてから、数や単位の表現を児童にたくさん聞かせます。

ひもを伸ばして、何の世界記録か、どのくらいの長さかを児童に推測させる。

児童が言う数字を英語に言い換えながら、数字や単位を繰り返し聞かせる。

4 達成感を与える工夫

歌を歌うときの工夫です。いつも行っている活動も難易度を上げると、できたときにうれしいものです。歌はいろいろな歌い方をすることで難易度を簡単に変えることができます。次の例は、中国語で歌うセブンステップスです。

イー、アール、サン、スー、ウー、リユー、チー
イー、アール、サン、スー、ウー、リユー、チー
イー、アール、サン
イー、アール、サン
イー、アール、サン、スー、ウー、リユー、チー

英語活動では、様々な言語に触れさせることも大切です。今回はスペイン語の uno, dos, tres, quatro, cinco, seis, siete で歌ってみます。



5 英語や活動内容を理解させる工夫

新しい英語の表現や活動内容を理解させるには、ジェスチャーやデモンストレーションが有効です。児童が英語を理解するタイミングを日ごろからよく観察しましょう。

(1) ジェスチャー

英語の指示や扱う英語表現の意味を児童が推測し、理解するときにジェスチャーは重要なヒントになります。次の例は、北京オリンピッククイズをしているときに swimmer の意味を理解させる場面です。

担任：Who is a gold medal swimmer?

児童：...

担任：Who is a gold medal swimmer. (言った直後に、泳ぐジェスチャーをする。)

児童：Kitajima!

最初の質問に対して児童は沈黙しています。「何を言っているかよく分からない」「分かる気がするけど自信がない」という気持ちの表れです。担任がもう一度、少しゆっくり同じ質問をします。そしてヒントとして泳ぐジェスチャーをします。すると一斉に児童が質問に答え始めました。ジェスチャーのタイミングに気を付けましょう (p.46 参照)。

(2) デモンストレーション

児童が活動内容をきちんと理解するまで、デモンストレーションを繰り返して理解させ、何をするか分からない児童がいる状況で活動を始めることがないようにします。TTのときは二人でデモンストレーションができますが、担任が一人で授業をしているときは、人形を利用したり、児童に手伝ってもらったりするとよいでしょう。次の例は、児童全員に切り紙をする際に、活動内容をデモンストレーションで示している場面です。

担任：Scissors! (指示をしてから、はさみを高く掲げて児童に見えるようにする。)

OK? Scissors.

児童：(担任を見て、はさみを道具箱の中から出し始める。)

担任：Make an animal. (実際に紙をはさみで切って、動物を作り、児童に見せる。)

OK? Let's make an animal.

児童：(何をするか理解し、紙とはさみを持って動物を切り抜き始める。)

6 英語活動に参加している気持ちにさせる工夫

活動で使用するものを作らせたり、絵を描かせたりする作業に取り組ませることで、英語は上手に言うことができなくても、興味・関心を途切れさせずに英語活動の授業に参加しているという気持ちにさせることが期待できます。次の例は、シルエットクイズをする際に、動物のシルエットを児童に作成させたときの手順です。

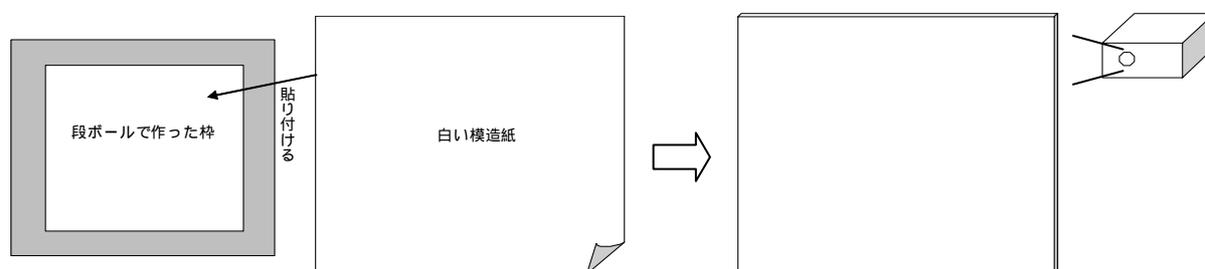
担任がシルエットクイズをいくつか出題し、クイズのやり方を理解させる。

児童に紙とはさみを使ってシルエットを作らせる。

希望する児童に、シルエットクイズを出題させる。



シルエットクイズは、段ボールで作った枠に模造紙を張り、裏からプロジェクターで照らせばできます。「小学校英語活動 15」p.34 も参考にしてください。



英語活動の授業中に児童に作業をさせる場合は、指導計画段階で英語を聞いたり話したりする時間を十分確保し、作業時間が授業の大半を占めることがないようにします。作業中は英語で児童に話しかけたり褒めたりします。児童が作成したものは、英語活動で利用しましょう。

7 自信を持って英語活動に取り組ませる工夫

児童は、英語に興味がある反面、みんなの前で英語を口にすることを恥ずかしがったり間違えることを嫌がったりします。このような児童の気持ちや感情への配慮は大切です。

(1) 例を示す

A L Tが英語で活動の指示や説明をしていると、児童にとっては難しい表現が出てくる場合があります。その場合は、担任が例を示して児童の理解を助けます。A L Tと事前に打ち合わせをしておくと、児童に提示する例を用意しておくことができます。

次の例は、「セブンステップス」を歌う場面です。A L Tが英語で「odd numbers (奇数) は歌わずに手をたたきなさい」と指示をした後に、担任が odd numbers の例を示します。

担任：Do you understand odd numbers? Odd numbers are 1, 3, 5, 7,

次に、even numbers (偶数) で同じ歌い方をするとき、同様に担任が例を示します。担任が、“Even numbers are 2 and,” と言うと、児童はすぐに even numbers が何か理解し、「4、6、8」と答えました。

(2) 本番前に練習をする

担任がデモンストレーションをしてもどのような活動をするか分からない児童がいるかもしれません。そのときは、“Let’s practice. One, two, three, go.” のような指示を出して、一度練習をするとよいでしょう。

(3) 段階を踏んで十分な発話練習を行う

コミュニケーション活動のように英語を話す活動をする場合は、児童の恥ずかしいという気持ちやみんなの前で失敗したくないという気持ちに配慮をしましょう。全体練習から個人練習へ、という段階を踏んだ練習をします。扱う表現に十分に慣れ親しむまで練習します。次の例は、好きな教科を尋ねたり答えたりするコミュニケーション活動をする前に、活動で扱う表現を練習している場面です。

好きな教科を英語で尋ねたり答えたりするデモンストレーションを見せながら、表現と意味を理解させる。

児童全員に、担任が言う表現を繰り返させる。

質問する側と答える側の半分に分けて、担任が言う表現を繰り返させる。

ペアで質問をする側と答える側に分けて、担任が言う表現を繰り返させる。

児童は、ペアで質問をする側と答える側に分かれて、交替で練習する。

児童全員に一斉に担任が好きな教科を質問させて、担任は好きな教科を答える。

8 またやりたいと思わせる工夫

1時間の授業の主な活動が終わった後に、楽しく簡単にできる活動をもう一つ入れて授業を終わらせると、楽しかったという気持ちが児童に残ります。例えば、主な活動の「好きな教科が同じ人を探す」という活動が終わり、好きな教科が同じ人同士でグループを作って座っています。ここで、ジェスチャーゲームを行います。各グループは、自分たちが好きな教科をジェスチャーで伝え、他の児童はそれが何の教科かをあてます。どのようにジェスチャーで表現するかをグループで考えさせてからゲームを始めます。

このような活動を最後に取り入れることにより、児童の気持ちを次の学習につなぐことが期待できます。

コラム

自分の英語力を高める

本冊子の「授業中はどのくらい英語を使えばよいでしょうか？」(p.45)と「主な表現一覧」(p.70)を見てください。中学校で学習したものがほとんどです。小学校の英語活動で使用する英語は、難しい表現を使う必要はありません。逆に、児童が理解できない難しい表現は使わないことが大切です。

先生方が自ら自分の英語力を高めるには、英語活動の授業の中で英語を使おうという意欲を持ち、実際に児童と一緒に英語を聞いたり話したりしながら、自分自身が英語に慣れ親しんでいくことが良い方法です。

聞く力や話す力をもっと付けたいときは、次の方法も効果的です。

シャドーイング

聞こえてきた英語を数語遅れで繰り返す練習方法です。

英語の原稿を読み、内容を理解しておく。

CDなどを聞きながら、聞こえてきた英語を数語遅れで繰り返す。

うまく繰り返せなかった場所は、原稿を見て確認する。

リピートイング

聞こえた英語を一文ごとに繰り返す練習方法です。

英語の原稿を読み、内容を理解しておく。

CDなどを聞きながら、1文ずつ音声を止めながら聞こえてきた文を繰り返す。

うまく繰り返せなかった場所は、原稿を見て確認する。

また、ALTと話すときに、事前に英語で話したいことを頭の中で対話形式のシミュレーションをしてから話をするのも、英語を聞く力や話す力を付ける効果が期待できます。

第9章 授業はどのように作っていけばよいでしょうか？

英語活動の授業を計画して授業を行うまでを、具体例を見ながら考えていきます。事例は、「単元計画はどのように作ればよいでしょうか？」(p.10～p.17)の章で扱った、A小学校での英語ノート5年生 Lesson 8「時間割を作ろう」の授業の第1時です。

1 授業の流れの作成

単元計画で活動の内容と展開が決まったら、授業の具体的な進め方を決めます。どのような工夫がされているかを記載したので参考にしてください。

英語ノート・指導資料に載っている活動 それ以外の活動 []内は予想される児童の応答

流れ	活動内容	担任の動きと主な英語
作 霧 る 困 活 気 動 を	英語であいさつをする。	<p>Hello, everyone. How are you? Are you happy? Are you hungry? ...</p>
導 入	<p>歌 Sunday, Monday, Tuesday 担任が掲示する曜日絵カードを見て何曜日か答える。 曜日の表現を知る。</p> <p>担任が言う曜日を繰り返しながら、歌の歌詞を練習する。</p> <p>CDを聞く。 歌を歌う。 ・ ゆっくり歌う。 ・ 少し速くして歌う。 ・ CDと一緒に歌う。</p>	<p>黒板に曜日絵カードを掲示し、今日は何曜日か聞く。 Look. What day is it today? [火曜日。] 火曜日カードを指して、繰り返させる。 Yes. It's Tuesday. Repeat. Tuesday. [Tuesday.] 単語を繰り返させる。 Repeat again. Sunday. [Sunday.] ~ Saturday. [Saturday.] And Sunday comes again. [And Sunday comes again.] 最後の部分はゆっくりと曜日カードを指しながら意味を理解させるとともに、何度も繰り返させる。</p> <p>Listen to the CD. 歌い方を指示し、一緒に歌う。最初はゆっくり歌う。 ・ Let's sing the song. ・ Let's sing the song again a little faster. ・ Let's sing the song again with the CD.</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>「何だろう？」と思わせる工夫 33 ページ参照</p> </div>	
	<p>教科書表紙カードを見て、何の教科書の表紙かをあてる。</p> <p>教科の表現を知る。</p>	<p>教科書表紙カードを半分隠したまま、児童に見せる。 Let's start the "What's this?" quiz. Look. What's this? 答えが出たら、その教科の表現を練習する。 Repeat. Math. [Math.] Math. [Math.]</p>

流れ	活動内容	担任の動きと主な英語
慣れ親しませる活動	<p>「好きな教科は何？」ゲーム デモンストレーションを見る。</p> <p>担任の言う英語を繰り返して、 一斉練習をする。</p> <p>クラスを半分にして練習する。 ペアで練習をする。</p> <p>個人練習をする。 「好きな教科は何？」ゲームを する。</p>	<p>今日は好きな教科だけ言えればよいと伝える。 人形を用いてゲームの説明をする。 担任：Hi. 人形：Hi 担任：What subject do you like? 人形：I like English. What subject do you like? 担任：I like English. Thank you.</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自信を持って英語活動に取り組ませる工夫 36 ページ参照</p> </div> <p>担任対児童で練習する。 教科を指定して（例 国語表紙カードを指して） 児童が好きな教科を使って 一斉練習と同じ手順で練習する。 横の友達、前後の友達と練習をさせる。 英語表現を忘れた児童に支援をする。 一斉に児童から担任に質問をする。 一人の児童に手伝ってもらい、ゲームのやり方のデ モンストレーションをする。 児童が活動内容を理解したか確認して始めさせる。 OK? Let's start. <行動観察></p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>またやりたいと思わせる工夫 37 ページ参照</p> </div> <p>教科名あてジェスチャークイズ をする。 好きな教科が同じ人同士でグル ープになり座る。 デモンストレーションを見る。</p> <p>指定されたら、好きな教科をジ ェスチャーで伝える。</p>	<p>「好きな教科は何？」ゲームを終わりにする。 Stop, everybody. Sit down. 次のクイズのデモンストレーションをする。 We are going to play a new quiz game. Look. I like（ジェスチャーをして見せる）... 児童が理解するまで何回か繰り返す。 グループを指定して、クイズを始める。 Let's start the quiz. san group, please.</p>
返振り	<p>振り返り あいさつ</p>	<p>次回につながるように良かった点を述べる。 You did a very good job today. That's all for today.</p>

私はこんなに英語を話す自信がありません。もっと簡単にしてください。



分かりました。簡単な指示や活動に必要な英語は省けませんが、授業のシナリオを作成してみましよう。



2 シナリオの作成

授業のシナリオの例です。授業の進め方や担任が話す英語について参考にしてください。



シナリオを作りました。これでどうですか。

流れ	担任のセリフ	予想される児童の応答
作秀 る困 活気 動を	<p>Hello.</p> <p>How are you?</p>	<p>Hello.</p> <p>I'm fine.</p>
導 入	<p>今日は曜日を英語で言ってみましょう。</p> <p>(曜日絵カードを黒板に掲示する。)</p> <p>黒板を見てください。今日は何曜日ですか。</p> <p>Yes. It's Tuesday. Repeat. Tuesday.</p> <p>(Tuesdayの隣のカードを指さして)これは何曜日ですか。</p> <p>Yes. It's Wednesday. Repeat. Wednesday.</p> <p>(以下、同様に Sunday まで繰り返す。)</p>	<p>火曜日</p> <p>Tuesday.</p> <p>水曜日</p> <p>Wednesday.</p>
	<p>では、日曜日からもう一度言ってみましょう。</p> <p>(曜日絵カードを指しながら、一つずつ繰り返させる。)</p> <p>Repeat. Sunday. Monday. ~ Friday. Saturday.</p> <p>(日曜日を再度指さして) And Sunday comes again.</p> <p>Repeat. (絵カードを指さしながらゆっくりと) Sunday.</p> <p>Monday. ~ Sunday comes again.</p>	<p>Sunday. Monday. ~</p> <p>Sunday. Monday. ~</p> <p>Sunday comes again.</p>
	<p>CDを聞いてください。 Listen.</p>	<p>(メロディを覚える。)</p>
	<p>ゆっくり歌ってみましょう。</p> <p>Stand up. Let's sing. (曜日絵カードを指さしながら)</p> <p>少しスピードを上げて歌ってみましょう。</p> <p>CDと一緒に歌いましょう。</p> <p>Very good. Sit down, please.</p>	<p>(1回目 全員で歌う。)</p> <p>(2回目 全員で歌う。)</p> <p>(3回目 全員で歌う。)</p>
	<p>“What's this?” クイズを始めます。</p> <p>これから教科書の表紙を見せます。どの教科書が分かったら、教科の名前を言ってください。</p> <p>Let's start.</p> <p>What's this? (教科書表紙カードは半分隠しておく。)</p> <p>Yes. 国語は英語でどう言うか知っていますか。</p>	<p>国語</p> <p>Japanese.</p>

流れ	担任のセリフ	予想される児童の応答
<p>導入</p>	<p>Good. It is Japanese. (国語の表紙カードを黒板に掲示する。) 日本は英語で何と言いますか。 そうです、Japan です。Japan で話す言葉は Japanese です。 練習しましょう。 Japanese. Japanese. Very good. Next. What's this? Yes. 算数です。(算数表紙カードを黒板に掲示する。) 算数は英語で何と言うか知っていますか。 math と言います。 Repeat. Math. Math. 舌を軽く噛むように Math. Math. では、復習しましょう。 Japanese. Math. (以下、同様に二つずつ単語を提示し、その都度、すべての単語を復習する。)</p>	<p>Japan. Japanese. Japanese. 算数。 知らない。 Math. Math. Math. Math. Japanese. Math.</p>
<p>慣れ親しませる活動</p>	<p>この教科の名前を使って活動をします。たくさん英語が出てきましたが、今日は、自分が好きな教科だけ覚えてください。 ----- 今から先生は英語の会話をします。今日は、友達に来てもらいました。(人形を取り出す。) 人形：Hello, everyone. My name is Tom. では、これから Tomさんと会話をします。あとでみんなにもやってもらおうのでよく聞いてください。 担任：Hi. Tom：Hi. 担任：What subject do you like? Tom：Mmm. I like math. What subject do you like? 担任：I like English. Thank you. Tom：You're welcome. もう一回やります。(別の教科名を使って繰り返す。) (以下省略。)</p>	<p>えっ、誰？ なんだ、人形か。</p> <div data-bbox="1070 1440 1417 1608" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>ありがとう。英語が少くなり、これなら僕にでもできます。</p> </div> 

考えてみましょう

p.39の「好きな教科は何？」ゲームの から振り返り、あいさつまでの部分のシナリオを作成してみましょう。

3 授業の振り返り

授業が終わったら、授業の流れや児童の様子を振り返り、メモを残しておきましょう。授業後のメモは、個々の活動、学習指導案、単元、年間活動計画を改善する際に、大切な資料となります。

振り返りメモ

歌について

児童が知っている曜日もあり、予想よりスムーズに歌えた。

教科を表す表現について

数が多くて負担になるかと思ったが、児童は元気良く教科名の練習をしていた。

「好きな教科は何？」ゲームについて

クラスの全員がたくさんの友達と積極的に英語で話していた。自分が好きな教科だけ言えばよいという指導も良かったのだろう。

教科名あてジェスチャークイズについて

ジェスチャーが何か知らない児童が数名いた。一人のままの児童の中には、恥ずかしがってジェスチャーをやりたがらない子がいた。また、どのようにジェスチャーで表現するか分からない子もいたが、他の児童が代わりにやってくれるといった驚きもあった。第4時にジェスチャークイズを再度行うが、第1時に1回やって、児童の様子が分かり良かった。第4時は全員がグループに入るのでジェスチャークイズをする恥ずかしさは和らぐだろう。また、みんなでアイデアを出しながらジェスチャーをするので、どう表現するか分からないという課題もクリアできるだろう。全体を通して

最後に「あー、楽しかった」という児童の声が聞こえてほっとした。今回は、一緒に学年を持っている先生が中心で授業を計画してくれたが、自分だけではここまでできなかった。チームで英語活動を進めていくことが必要だと実感した。

私のメモです。



考えてみましょう

紹介された事例をそのまま利用しても授業がうまくいかないことがあります。指導目標、児童の様子、自分の経験などを考慮して、p.38～p.39のA小学校の例をアレンジしてみましょう。次の条件を参考にアレンジしてもかまいません。

児童に、“What...do you like?”という表現に触れさせたことがない。

教科を表す単語は、英語ノートで扱っているものだけにする。

単元の最後に時間割を発表する活動は行う。

第 10 章 他校の事例はどのようにアレンジすればよいでしょうか？

他校の実践事例を利用する場合は、自分の学校の児童に合うようにアレンジすることが大切です。ここでは、p.38～p.39 の事例を、自分の学校の児童に合うようにアレンジする手順について考えてみましょう。また、各小学校で、単元計画や学習指導案を蓄積するとともに、長期休業期間などを利用して、それらの見直しをすることも大切なことです。p.57 に、文字を扱った事例における指導計画の修正例が出ていますので、参考にしてください。

1 他校の事例から読み取ること

他校の単元計画案や学習指導案を見て、扱っている英語表現や児童の様子などを確認する必要があります。例えば、p.38～p.39 の事例からは、A 小学校の児童にとって曜日や教科を表す英語表現は新出のものです。あいさつで使用する表現、幾つかの簡単な指示表現、“What... do you like?”、“I like... .”という表現には、既に慣れ親しんでいることが分かります。

2 児童の実態に合わせたアレンジ

(1) 今までの自校の活動内容を確認する

今までの英語活動の積み重ねを振り返り、どのような表現に児童が慣れ親しんできたか確認します。今まで慣れ親しんできた表現を活用して、児童にとって無理なく、楽しく英語活動ができるようにしましょう。次のような場合を想定して、A 小学校で行った第 1 時の事例をアレンジしてみましょう。単元の最後には「グループで話し合っ、自分たちの時間割を作り、発表しよう」という活動をするを目標とします。

クラスの児童は、“I like... .”、曜日を表す表現には慣れ親しんでいる。

教科を表す表現や “What...do you like?” という表現に触れさせたことはない。また、英語ノートで扱う教科は 9 教科だが、一度に 9 個の単語を導入したことはない。

児童にジェスチャーをさせたことはない。

(2) 扱う表現や活動内容を検討する

これまでの活動内容や児童の様子を踏まえて、扱う英語表現や活動内容を検討します。ここでは、上記の想定に基づき、次のような方針で、p.38～p.39 の事例をアレンジします。

扱う英語表現は、曜日、教科（英語ノートで扱っている教科のみにする。） “Do you like...?”、“I like... .” とする。

扱う英語表現の数に配慮して、表現の導入と「好きな教科は何？」ゲームは工夫をする。

ジェスチャーは、言葉によらない伝達方法を体験的に理解させるために行う。

(3) アレンジ例

活動の大まかな流れは同じですが、扱う英語表現や活動内容は変えたものがあります。

英語ノート・指導資料に載っている活動 それ以外の活動

流れ	活動内容	担任の動きと主な英語
作 秀 る 団 活 気 動 を	英語であいさつをする。	Hello, everyone. How are you?
導 入	歌 Sunday, Monday, Tuesday 担任が掲示する曜日絵カードを見て曜日の表現を復習する。 CDを聞き、歌詞を確認する。 歌を歌う。	黒板に曜日絵カードを掲示し、何曜日が聞く。 Look. What day is it? Listen to the CD. ゆっくり曜日カードを指しながら意味を理解させ、歌詞の最後の部分は何度か繰り返させる。 最初は、曜日カードを指しながらゆっくり歌う。 Let's sing.
	“What's this?” クイズ〔5教科〕 国語、算数、理科、社会、英語 活動の5教科の表現を知る。 5教科伝言ゲーム	教科書表紙カードを半分隠して、質問をする。 教科の表現を練習する。 “Do you like...?” を用いて、伝言ゲームを行う。
	“What's this?” クイズ〔4教科〕 音楽、図工、体育、家庭科の4教科の表現を知る。 4教科伝言ゲーム	教科書表紙カードを半分隠して、質問をする。 教科の表現を練習する。 “Do you like...?” を用いて、伝言ゲームを行う。
慣 れ 親 し ま せ る 活 動	「好きな教科は何？」ゲーム 教科絵カードを1枚もらう。 同じ教科絵カードを持っている人を、“Do you like...?”という表現を使いながら、制限時間以内にできるだけたくさん見付ける。 3回目は、自分が実際に好きな教科が同じ人をたくさん見付けて一緒に行動する。 教科ジェスチャーゲーム 担任が行うジェスチャーを見て何の教科かをあてる。 みんなの前で、グループで考えたジェスチャーをする。	1回目は、5教科で行う。カードを1枚ずつ渡す。 各教科の表現を“Do you like...?” “I like... .”の表現と一緒に発音練習して自分の教科絵カードの発音を確認してからゲームを行う。 2回目は、4教科で同様に行う。 3回目は、カードを回収し、自分が本当に好きな教科を用いて質問をするように指示する。 終了の合図とともに、できたグループで座る。 ジェスチャーの説明をする。 担任がジェスチャーをして児童に何の教科かをあてさせる。 各グループに時間を与えてジェスチャーを考えさせる。
返 振 り り	振り返り あいさつ	次回につながるように良かった点を述べる。

第 11 章 授業中はどのくらい英語を使えばよいのでしょうか？

担任が教室で使用する英語は、大きく分けて 2 種類が考えられます。あいさつ、指示などで使用する英語と、児童が英語活動をするために必要な言語材料としての英語です。前者は、クラスルーム・イングリッシュと呼ばれるものです。「小学校英語活動 15」の p.75～p.78 に、「先生が授業で使用する英語表現」が掲載されているので参考にしてください。

1 あいさつや指示などで英語を使うときの留意点

あいさつや指示で使用する表現はたくさんあるので、どの表現を選ぶか迷ってしまうことがあります。使用する表現を選ぶ際は、次に挙げた規準を参考にしてください。

(1) 毎回の授業で使う可能性が高い指示表現を選ぶ

毎回の授業で使う可能性が高い表現は、次のものが考えられます。毎回使うことで、児童だけでなく担任も、これらの指示表現に慣れ親しんでいくことができます。

例 Good morning. Hi. How are you? That's all for today. See you.
 Let's start. Stop. Let's sing a song. Good. Great. OK? Listen.
 Look. Watch me. Copy me. Come here. Stand up. Sit down.
 Make pairs, please. Make a group of four, please. Are you ready?
 Here you are. Thank you. ..., please. など

(2) 児童にとって、分かりやすく、イメージをしやすい表現を選ぶ

児童にとって分かりやすい表現を選ぶことは、児童に「聞いた英語が分かった」という気持ちを持たせる上で大切です。簡潔で短い表現を選ぶことも大切です。

例 黒板に示した数字を一つずつ消していく場面
 A 先生 : Let's erase 3.
 B 先生 : Let's erase 3. Bye-bye, number 3.

Bye-bye.



(3) 応用できる表現を選ぶ

単語などを少し変えるだけで使えるような応用できる表現を選びます。そうすることで、児童は聞いたことがある表現を基にして、担任が出した指示などの意味を推測し、理解することが期待できます。

例 Make a circle + with your fingers / with your hands.
 Make a big circle + with your friends.

(4) ジェスチャーを交えて指示を出す

ジェスチャーを交えて指示を出すと、児童にとって指示の意味が理解しやすくなります。特に、児童が初めて聞く指示の場合は、ジェスチャーを交えるようにしましょう。

- 例 Stand up. 両腕を前に出し、両方の手の平を上に向けて、下から上に動かす。
 Sit down. 両腕を前に出し、両方の手の平を下に向けて、上から下に動かす。
 Be quiet. 日本語の「しーっ」と同じジェスチャーをする。
 Listen. 両耳に手をあてがう。

Raise your hand.



ジェスチャーをするタイミングにも気を付けましょう。

英語で指示を出したら、適度な間を置いて児童が理解したか様子を見る。

理解していないようなら再度指示を出して、ジェスチャーをする。

英語で指示をした後に、ジェスチャーをして見せます。そうでなければ英語を聞く必然性がなくなるからです。

(5) 児童の様子を見ながら指示を出す

英語での指示は、ゆっくり、はっきりと出します。指示をしたら、適度な間を置いて児童の理解を確認します。必要に応じて、ジェスチャーを交えて繰り返します。

2 簡単な英語表現で進める授業例

できるだけ簡単な表現で授業を進めていく例を見ていきましょう。授業の概略は次のとおりです。主な活動は「好きなものを尋ねる」です。

< 授業の概略 >

流れ	担任の動き
作 零 る 困 活 気 動 を	英語であいさつをし、授業の開始を告げる。
導 入	果物絵カードを使用して、果物の言い方を練習する。 ----- Do you like...? / Yes. / No. の言い方をデモンストレーションを交えて提示する。
活 慣 動 れ 親 し ま せ る	全体で練習をする。 クラスを半分に分けて練習をする。 ペアで練習をする。 できるだけたくさんの友だちに好きな果物を聞く活動をする。(ワークシートに、誰がどの果物が好きかを記入するように指示をする。)
返 振 り り	活動に取り組む児童の態度について良かった点を伝えて褒める。

この授業で使用する表現は、「今回の授業で使用する表現」の欄に記載したものです。これ以外の指示や説明は日本語で行います。また、「今後の授業で使いたい表現」も参考として掲載しておきます。p.40～p.41のシナリオも参考にしてください。

流れ	今回の授業で使用する表現	今後の授業で使いたい表現
活 動 困 気 を 作 る	Hello. How are you?	Hello, everyone. How are you today? How are you this morning?
	Let's study English.	Let's start English class. What did you eat for breakfast?
単 語 の 導 入	(1)Look. (果物絵カードを使用) What's this? (2)Good.	Look at this card. What's this? Next. What's this? How about this? How do you say it in English?. Very good. Great. Good try.
表 現 の 導 入	Look. (デモンストレーション) (3)Do you like apples? Yes. Do you like melons? No. OK? Look again.	Look and listen to us. (TTや児童に手伝ってもらっている場合) Do you understand? Look at us again.
慣 れ 親 し ま せ る 活 動	Repeat. Stand up. Start. Stop.	Repeat, everyone. This side, repeat after me. (クラスを半分に分けるジェスチャーをしながら) (ペアでの練習の仕方を説明して) Make pairs and start. (活動の仕方をデモンストレーションしながら) Stand up and ask your friends, "Do you like...?" Start. Stop. Time is up.
返 振 り	Good job. That's all for today.	Did you enjoy English? You did a great job. Let's enjoy English next time, too.

- (1)“Look.”という指示を初めて児童に出す場合は、目を指さずジェスチャーを交えて指示する。
- (2)“Good.”は、褒める言葉として、単語の導入時以外でも使用する。
- (3)デモンストレーションをしながら提示する英語表現は、児童が活動するために必要な表現なので、担任は事前に練習をして、発話できるようにしておく。

第 12 章 教材や教具の扱いはどうしたらよいでしょうか？

教材・教具は、英語ノートや市販のものを利用する以外に、自分たちで作成したり、工夫したりするとよいでしょう。また、児童が教科等で作成した作品を利用することも考えられます。

1 教材・教具の工夫

教材を作成する場合、いろいろな使い方ができるような工夫をしておくといよいでしょう。例えば、野菜絵カードを作成する場合は、野菜に色を塗る、野菜によって数を変える、野菜名の綴りを書き入れることなどが考えられます。職業絵カードを作成する場合は、人数を変える、仕事場の絵などを背景に入れておく、身に付けているものを 1～2 個ずつ描いておくことが考えられます。

2 いろいろな使い方

上記の工夫をした絵カードは、次のように使うことができます。

担任が児童に絵カードを見せて使用する活動例

- ・数える “How many?” と聞き、絵の中に描かれているものや人を数えさせる。
- ・計算する “Make 10.” と言って、足して 10 になる野菜の組合せを答えさせる。
- ・文字を見付ける “Find B.” と言って、指示した文字を絵カードの中から見付けさせる。
- ・色を答える “What color?” と聞き、絵の中に描かれているものの色を答えさせる。
また、絵をしばらく見せたら裏返して、絵の中の人が身に付けているものの色を “Sweater. What color?” のように聞くこともできる。
- ・職業を答える “What is this person?” と言って、絵に描かれた仕事場の部分だけを見せて、職業を答えさせる。

児童に絵カードを持たせて使用する活動例

- ・同じ絵カードを持っている人を見付ける（インタビューゲーム、マッチングゲーム）
- ・担任が言った絵カードを取る（カルタ、キーワードゲーム）
- ・ごっこ遊びで使う（買い物ごっこ）

3 教材・教具の共有と管理

教材・教具は、整理・保管をして教員全体で共有する体制を作るとよいでしょう。例えば、教材を画像化して CD-ROM に入れておくことなどが考えられます。

神奈川県立総合教育センターでは、カリキュラム開発センターに英語教材を展示しています。

また、Web ページの KANA ボックスでも教材を公開しています。

例 KANA ボックス 画像素材集 外国語素材集

第13章 A L Tとどのように協力すればよいでしょうか？

A L Tと一緒に授業を進めていく姿勢が大切です。授業のときだけでなく、授業の計画段階からA L Tと協力することで、より有意義な英語活動を行う可能性が広がります。

1 授業計画のパートナーとして

授業の計画段階では、授業で扱う英語表現の選択や教材・教具の作成、シナリオの確認などが、A L Tに協力してもらう事項として考えられます。また、A L Tの出身国の文化や生活に関する情報が活動内容のヒントになることもあります。

A L Tに協力を依頼するときの表現として以下の英文を参考にしてください。

扱う英語表現を選ぶとき

I am now making a lesson plan about animals. Would you please tell me the names of popular animals?

クラスルームイングリッシュのリストを作るとき

I am now making a classroom English list. Would you please tell me easy classroom English expressions?

授業のシナリオを作るとき

I am now making a script for Lesson 2. Would you please correct my English?

2 授業のパートナーとして

T Tでは、担任とA L Tがお互いに協力しながら授業を進めていきますが、お互いの役割を事前の打合せで明確にしておくことが大切です。ただし、活動内容や活動に取り組む児童の様子を踏まえて、授業中は柔軟に対応しましょう。

例 担任の主な役割 授業内容やねらいを説明する 児童が表現や活動内容を理解したか判断しながら授業を進める など

A L Tの主な役割 英語の音声に慣れ親しませる それぞれの活動を進める 外国の文化を伝える など

3 A L Tとの打合せ

いろいろな小学校で課題となるのが、打合せの時間が取れないというものです。A L Tが学校に来る回数や時間帯などが関連するので、各学校の実情に合った方法を考えていく必要があります。担任全員がA L Tと打合せをするのか、代表者のみが打合せをして他の担任に内容を伝えるのかなどの方法を工夫しましょう。

第 14 章 文字はどのように扱えばよいでしょうか？

ここでは、英語活動での文字の扱い方に関する考え方と文字を扱った事例を見ていきます。

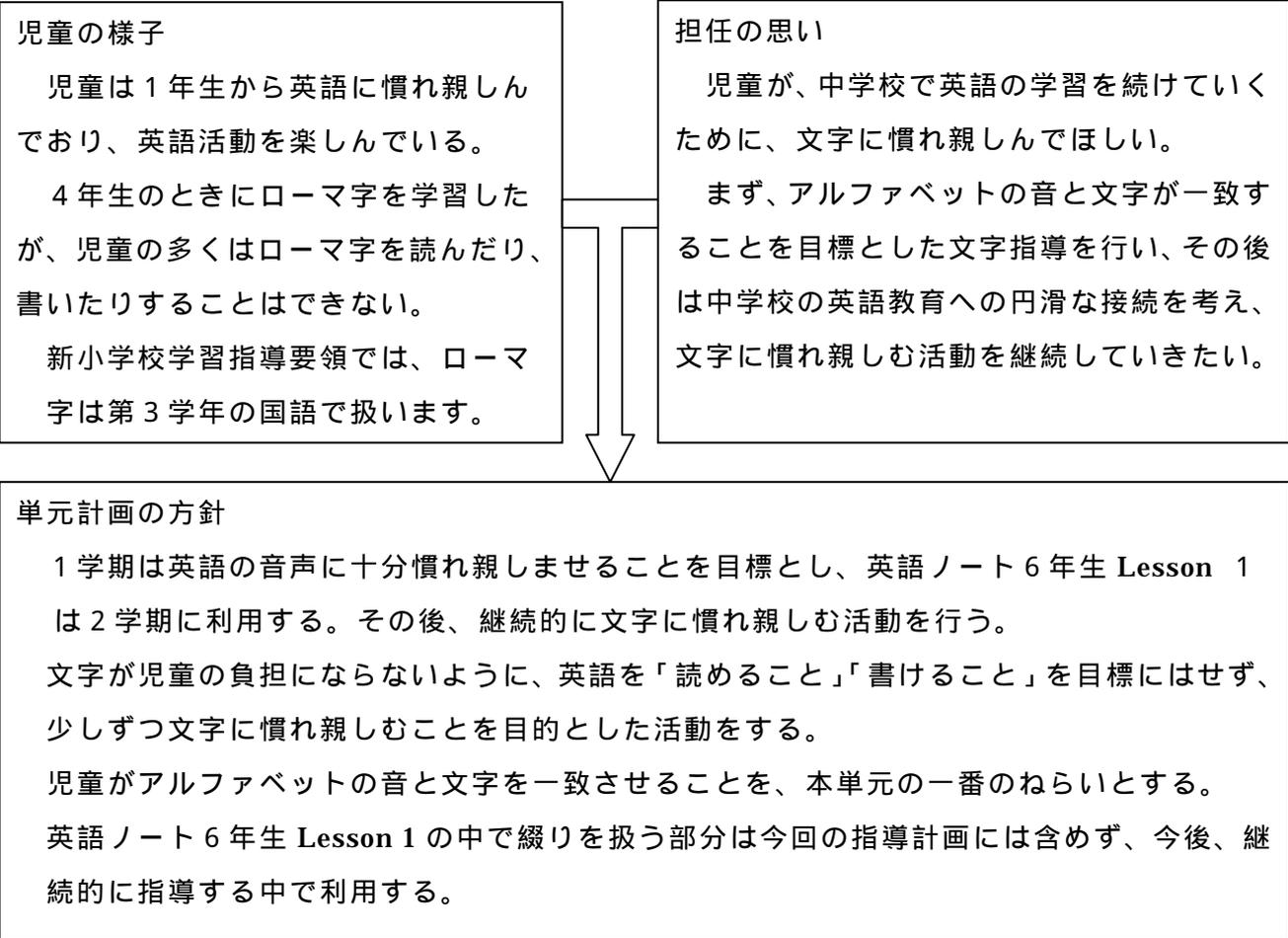
1 文字の扱いに関する基本的な考え方

英語活動では音声面を中心とする活動を行うので、文字は「児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして用いる」(小学校学習指導要領)こととなっています。英語の音声に慣れ親しんだ段階で文字指導を開始するとともに児童の様子やこれまでの取組を踏まえて、アルファベットの活字体の大文字及び小文字に触れる段階にとどめるなどの配慮も必要です。指導に当たっては、聞くこと及び話すこととの関連を持たせるために、文字を扱いながら英語をたくさん聞かせたり、話させたりする活動を考えましょう。

2 文字を扱った事例

(1) 単元計画の方針確認

ここでは、英語ノート 6 年生 Lesson 1 「アルファベットで遊ぼう」を扱った事例を見ていきます。



(2) 単元計画の作成

ア 単元の目標と評価規準を設定する

英語ノートの指導資料を参考に、単元目標と評価規準を設定しました。

単元目標 アルファベットの大文字に興味を持つ。

積極的に、アルファベットの大文字を見付けて、読む。

評価規準 アルファベットの大文字の読み方と文字とを一致させようとする。

アルファベットの大文字の読み方を聞いて、それがどの文字分かる。

二つ目の評価は、英語ノート p. 6 ~ p. 7 の文字や数字を結ぶ活動を行い、英語ノートを提出させて評価することもできそうですね。



イ 各活動の決定

英語ノート 6 年生及び指導資料第 6 学年の Lesson 1 に載っている活動 (印) から幾つか選び、そこにそれ以外の活動 (印) を組み込みました。

A から Z の文字を見付けよう

ねらい：アルファベットの大文字の音と文字を知る。

大文字アルファベットカードを見せて音と文字を確認し、その文字が英語ノート 6 年生の p. 4 ~ p. 5 の絵のどこにあるかを探させる。

見つけたアルファベットが絵のどこにあるかを担任に伝えさせる。

アルファベットを指そう

ねらい：アルファベットの音と文字に慣れ親しむ。

担任はアルファベットを 1 文字読み、児童に繰り返させてから、上記の活動で用いた絵の周囲にあるアルファベットの中からその文字を指さすように指示する。幾つか探したら、次にペアを作らせ、アルファベットを探す競争をさせる。

アルファベットソング

ねらい：アルファベットの音に慣れ親しむ。

最後の “Happy, happy, I’m happy. I can sing my ABC.” は、児童にとって難しいかもしれないので 2 ~ 3 回練習する。

歌うときは、黒板に掲示した大文字アルファベットカードを指さす。

2 時間目以降は、円形アルファベット表を見ながら、いろいろな歌い方をする。

イニシャルでアルファベットソング

ねらい：アルファベットが自分にとって身近なものであると感じる。

イニシャルが何かを説明し、児童のイニシャルを確認する。

アルファベットソングを歌いながら、自分の姓名のイニシャルが出てきたところで手を挙げさせる。姓名のイニシャルが同じ児童は、両手を挙げさせる。

2回目は、手を挙げる代わりに、立ち上がる。

最後の“I can sing my ABC.”まで、手を挙げさせたり、立たせたりする。

アルファベットカルタ

ねらい：アルファベットの音と文字に慣れ親しむ。

英語ノート巻末のアルファベットカードで、最初は練習として一人で行わせる。

グループでカルタをする。

アルファベットとそれぞれの指

ねらい：聞こえたアルファベットに対して、指を動かして反応する。

それぞれの指を英語で何と言うか理解させる。

どの文字のときに指を動かすかデモンストレーションで示し、練習をさせる。

担任が言うアルファベットを聞いて、対応する指を動かすように指示をする。

線で結ぼう

ねらい：アルファベットの音と文字に慣れ親しむ。

英語ノート6年生のp.6～p.7とCDを使い、聞こえた文字や数字を線で結ぶように指示をして、最後に何の絵が出てきたか言わせる。

音と文字がまだ一致しない児童が多い場合は、CDは使用せず担任がゆっくり文字や数字を読む。

A B C ビンゴ

ねらい：アルファベットの音と文字に慣れ親しむ。

掲示したアルファベットの表を見ながら、ビンゴカードに文字を書かせる。

ビンゴが一つできたら終わりにするのではなく、たくさんビンゴを作らせる。

一番たくさんビンゴができた児童に拍手を送り終了する。

アルファベットを書くのが児童にとって難しい場合は、英語ノートの巻末にあるアルファベットカードを使う。

キーボードを打とう

ねらい：アルファベットの音と文字及びキーボードに慣れ親しむ。

どの指でどのキーを押すかキーボードカードを使って練習する。ゆっくり行う。
キーボードカード上でホームポジションを維持しながら、言われた文字を打つ。

ウ 単元計画の作成

英語ノートに基づいて、次のように単元計画を作成しました。

単元目標 アルファベットの読み方を聞いて、それがどの大文字か分かる。

評価計画

第1時 アルファベットの大文字の読み方と文字とを一致させようとする。

< 行動観察 >

第2時 アルファベットの大文字の読み方を聞いて、それがどの文字か分かる。

< 英語ノート提出 >

第3時 聞こえたアルファベットに、指を動かして反応している。 < 行動観察 >

扱う英語表現

アルファベット、thumb、forefinger、middle finger、ring finger、little finger

教材・教具

英語ノート、p. 4 ~ p. 5 の拡大絵、大文字アルファベットカード、CD、キーボードシート、ビンゴカード、円形アルファベット表

英語ノート・指導資料に載っている活動 それ以外の活動

第1時		第2時		第3時	
作 霧 る 困 活 気 動 を	英語のあいさつ	作 霧 る 困 活 気 動 を	英語のあいさつ	作 霧 る 困 活 気 動 を	英語のあいさつ
導 入	A から Z の文字を 見付けよう	復 習	アルファベットソ ング	復 習	アルファベットソ ング
慣 れ 親 し ま せ る 活 動	アルファベットを 指そう < 行動観察 > アルファベットソ ング イニシャルでアル ファベットソング	慣 れ 親 し ま せ る 活 動	アルファベットカ ルタ アルファベットと それぞれの指 線で結ぼう < 英語 ノート提出 >	慣 れ 親 し ま せ る 活 動	A B C ビンゴ キーボードを打と う < 行動観察 >
返 振 り り	振り返りカード記入	返 振 り り	振り返りカード記入	返 振 り り	振り返りカード記入

(3) 授業の流れの作成

英語ノート6年生 Lesson 1 の第1時に行う授業の流れです。どのような工夫がされているかを記載したので参考にしてください。 []内は予想される児童の応答

流れ	活動内容	担任の動きと主な英語
作 業 の 困 り 活 気 動 を	英語であいさつをする。	Hello, everybody. How are you?
導 入	A から Z の文字を見付けよう 英語ノート p. 4 ~ p. 5 を開ける。 担任が示す大文字アルファベットカードを見て、その文字の読み方を知る。 その文字を英語ノート (p. 4 ~ p. 5) にある絵の中から見付けて指さす。 見つけたら手を挙げる。	黒板に p. 4 ~ p. 5 を拡大した絵を掲示する。 Open your textbook to page 4 and 5. What is this letter? This is "A." 黒板に A のアルファベットカードを掲示する。 Where is "A" in the picture? Point to "A" and raise your hand.
	英語や活動内容を理解させる工夫 p.34 参照	
	絵のどこにあるかをみんなで担任に伝える。	Where is "A" in the picture? 上下左右を表す表現を繰り返し聞かせ、拡大した絵の上で指を動かし、文字の位置を確認する。 [もっと上] Up? [行き過ぎ、もっと下] Down? [Down.] [もっと右] Right? ~ を繰り返す。
慣 れ 親 し ま せ る 活 動	アルファベットを指そうやり方を説明する。 担任が言うアルファベットを聞いて、繰り返す。 そのアルファベットを絵の回りにある文字の中から見付ける。 答えを確認する。	Let's try a new game. I will say a letter from the alphabet. Repeat after me. And point to the letter. R. [R.] R. [R.] Where is "R"? Where is "R"? Up? Down? Right? Left? 拡大した絵の中の文字を指し、場所を確認する。 ~ を繰り返す。<行動観察>

流れ	活動内容	担任の動きと主な英語
慣れ親しませる活動	<p>アルファベットソング</p> <p>CDを聞きながら、一度歌う。</p> <p>Happy, happy, I'm happy. I can sing my ABC. の部分を2～3回練習する。</p> <p>もう一度歌う。</p>	<p>Let's sing the Alphabet Song together.</p> <p>歌いながらアルファベットカードを指さす。</p> <p>Let's sing the last part. Repeat.</p> <p>最後の部分は難しいかもしれないので、児童の様子を見ながら、数回ゆっくりと練習する。</p> <p>Let's sing again.</p>
	<p>イニシャルでアルファベットソング</p> <p>自分のイニシャルを確認する。</p>	<p>イニシャルが何かを説明してから自分のイニシャルを知っているかを確認する。</p> <p>Stand up, please. Do you know your initials? Yes? Then sit down, please.</p> <p>立っている児童（自分のイニシャルを知らない児童）に個別にイニシャルを教える。</p> <p>Your initials are S.H. Your initials are O.W.</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自信を持って英語活動に取り組みさせる工夫 p.36 参照 </div>	
	<p>自分は歌のどこで手を挙げるか確認する。</p> <p>1回目。歌いながら手を挙げる。</p> <p>2回目。歌いながら立ち上がる。</p>	<p>アルファベットを一つずつ指して、それぞれの児童がどこで手を挙げるか確認する。</p> <p>Who is "A"? Who is "B"? "C"? "D"?</p> <p>Let's sing the Alphabet Song again.</p> <p>Raise your hand when your initials come.</p> <p>If your initials are Y.Y., raise your both hands.</p> <p>今度は、立ち上がるように指示をする。</p> <p>Next. Stand up when your initials come.</p>
返振り	振り返しカードに記入する。	<p>振り返しカードに記入させる。</p> <p>That's all for today.</p>



私はこんなにたくさん英語を話す自信がありません。どうしましょう。日本語で授業を進めてはいけませんか？

英語を使おうとする担任の姿勢を児童に見せることは大切です。p.40～p.41を参考にして授業のシナリオを作りましょう。



(4) 授業の振り返り

ア 授業で良かった点や改善点を記録する

授業が終わったあとに、授業の流れや児童の様子を振り返り、メモしたものです。このメモを基に、学習指導案の改善や次回の授業に向けた計画の修正をします。

振り返りメモ

「AからZの文字を見付けよう」について

児童は、アルファベットの文字を探す活動を集中して楽しそうに行っていた。しかし、予想以上に時間が掛かり、すべてのアルファベットを探す時間はなかった。児童に、“Up?”、“Down?”、“Right?”、“Left?”と繰り返し言いながら文字の場所を確認すると、児童は次第に“Up, up!”、“No. Down.”と一生懸命に英語を使って文字の場所を指示していた。

「アルファベットを指そう」について

児童は担任が言うアルファベットの音を一生懸命に聞き取ろうとしていた。しかし、まだ間違えて指さす児童も多いので、第2時の「アルファベットの大文字の読み方を聞いて、それがどの文字か分かる」という評価は、文字にもう少し慣れ親しませてからでもよいだろう。

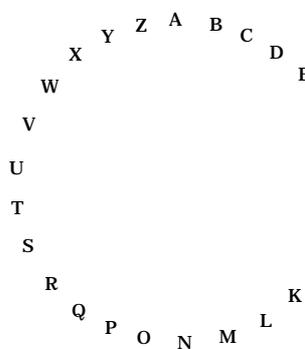
「アルファベットソング」について

ほとんどの児童が知っている歌だったので、すぐに歌うことができた。最後の部分も、練習を2回行っただけで歌えるようになった。

「イニシャルでアルファベットソング」について

自分のイニシャルを知っている児童は半分程度だった。活動に入る前に、自分がいつ手を挙げるか確認したので、児童は安心して活動を楽しんでいた。

<円形アルファベット表>



この円形アルファベット表を見ながら、Eから歌ったり、Zから逆に歌ったり、「七夕」のメロディで歌ったりします。

文字をいろいろな色で書いておくと活動の幅が広がります。例えば、オレンジ色で書いた文字は、歌わないで手をたたいたりする活動が考えられます。



イ 指導計画の修正

第1時の授業後のメモを基に、指導計画を修正しました。

来年度に向けての修正については、児童はすぐにアルファベットソングを歌うことはできるようになったが、AからZの文字を見付ける活動は予想以上に時間が掛かったことから、本単元の第1時の指導計画を次のように修正する。

第1時	
作 霧 る 困 活 気 動 を	あいさつ
導 入	アルファベットソング
慣 れ 親 し ま せ る 活 動	AからZの文字を見付けよう
返 振 り	振り返りカード記入 あいさつ

- ・アルファベットソングを歌いながら、文字を見せる。
- ・いろいろな工夫をした歌い方をする。
- ・文字を3～4個探したら、次にクラスを半分に分け、別々の文字を探す競争をする。

自分はまだ英語活動の指導に慣れていないので、このように活動内容を限定すれば、もっと余裕を持って授業ができるかもしれません。



第1時の授業の反省を踏まえて、第2時は次の流れで行うことにした。

第2時	
作 霧 る 困 活 気 動 を	あいさつ
復 習	アルファベットソング
活 慣 動 れ 親 し ま せ る	アルファベットカルタ 線で結ぼう
返 振 り	振り返りカード記入 あいさつ

- ・予定していた「アルファベットとそれぞれの指」は、第2時の授業では行わず、第3時で行う。
- ・逆から歌う、途中から歌うなどいろいろな歌い方をする。
- ・一人で練習をしてから、グループに分かれてカルタをする。

「読み方を聞いて、それがどの文字が分かる」という評価は、文字に慣れ親しむ活動をしばらく継続的に行ってからすることにしました。しかし、どのくらい音と文字が一致するようになったかを確認するために「線で結ぼう」を行って、英語ノートを集める予定です。



第 15 章 学校独自の英語活動はどのように開発するのでしょうか？

英語活動を自分たちで作る際は、小学校学習指導要領に記載されている外国語活動の「内容」や「指導計画の作成と内容の取扱い」に基づいて、アイデアを具体化していきましょう。

ここでは、「外国語活動を通して、外国語や外国の文化のみならず、国語や我が国の文化についても併せて理解を深めることができるようにすること。」(小学校学習指導要領 第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(1) エ)という点に基づいた例を見ていきましょう。

ある小学校で、日本の文化を扱った英語活動を自分たちで作ることになり、担当者が集まり、アイデアを出し合いました。



日本の遊びを A L T に英語で紹介するのはどうでしょう。4年生の時にあやとりやおてだまをしていた子どももいたので、身近な題材だと思います。

遊びの説明は日本語でも難しいですよ。それに、遊びのやり方は「こうやるんだよ。」と言って、実際にやってみせる方が自然でしょう。



日本の伝統的なおもちゃを箱に入れて見えなくして、箱の中のおもちゃが何かをあてさせるクイズはどうですか。(ブラックボックスクイズ)



このアイデアに更に次のアイデアが加えられました。

- ・ A L T に箱の中に手を入れてもらい、手に触れたおもちゃの形や感触をヒントとして児童に伝えてもらう。
- ・ 活動形態は、グループ活動にして、正解したグループには 10 点を与えて、ゲーム性を高める。
- ・ A L T に、興味深い日本のおもちゃや A L T の国の遊びを紹介してもらう。

次に、活動のねらいを検討して、次のようなねらいを候補として挙げました。

形や感触の表現を知る、いろいろなおもちゃを英語でどういふかを知る、外国人から見た日本のおもちゃのおもしろさを知る、外国の遊びについて知る、A L T が話す英語を聞いて理解しようとする

日本のおもちゃの英語名を知ることよりも、英語を通してクイズを楽しむことを重視したいですね。



次に、扱う英語表現を選択するに当たって、次の条件を考えました。

条件 児童がみんな知っているおもちゃで、英語の説明が簡単そうなもの。

候補 おもちゃ 折り紙、あやとり、おてだま、こま、おはじき、ビー玉、だるま落とし、けん玉、積み木、カルタ、めんこ、ゲーム機

英語表現 大きい、小さい、このくらいの大きさ、固い、柔らかい、丸い、四角い、薄い



A L Tに頼んで、おもちゃに触ってもらい、形や感触を英語で言ってもらいましょう。あと、ゲーム機は伝統的なおもちゃではないですよ。

違うものを一つ入れておくとおもしろいと思いますよ。おもちゃを最後に全部見せて、どれが仲間はずれか考えさせることもできますね。



A L Tと打合せの際に、候補となったおもちゃに触ってもらいながら、扱う英語表現を選びました。

A 先生：Excuse me, Mr. [A L T の名前]. I want to make a lesson plan. It is about Japanese toys. Help me make the word list. Please touch these toys, and tell me how they feel in simple English?

A L T：It's my pleasure.

(A L T に、実際におもちゃを触ってもらう。)

A 先生：Thank you very much. I really appreciate your help.

おもちゃと扱う英語表現を次のように決めました。

おもちゃ：折り紙、あやとり、おてだま、おはじき、けん玉、めんこ、ゲーム機

感触を表す表現：hard soft

形状を表す表現：big small thin circle square flat long

this big (「このくらいの大きさ」の意) など

時間設定ですが、単語だけ見ても1時間では難しそうですね。A L Tが自分の国の遊びを紹介してくれるので、2時間で設定しましょう。



表現の導入時では、感触を表す表現は実際に固いものと柔らかいものに触れさせましょう。形状を表す表現は、身の回りのものやジェスチャーを使って理解させることができるでしょう。その後、“What is soft?”、“What is thin?”などと質問して慣れ親しませましょう。あやとりやけん玉は、cord や hammer、ball などの日本語になっている言葉を利用しながらジェスチャーを使って表すことができそうですね。



単元計画

単元名 おもちゃで遊ぼう (2時間)

単元目標

形状や感触を表す英語に慣れ親しむ。

英語で出題されるクイズを楽しむ。

伝統的な日本や外国のおもちゃや遊びに関心を持つ。

評価規準

第1時 英語で出題されるクイズを楽しんでいる。<行動観察>

第2時 伝統的な日本や外国のおもちゃや遊びに関心を持つ。<行動観察>

扱う英語表現

hard、soft、big、small、thin、circle、square、flat、long、this big など

教材・教具

おもちゃを入れる箱(ブラックボックス)、折り紙、あやとり、おてだま、おはじき、けん玉、めんこ、ゲーム機

第1時		第2時 ALTとのTT	
雰 囲 気 を 作 る 活 動	あいさつ	雰 囲 気 を 作 る 活 動	あいさつ
	早口ことば How much wood would a woodchuck chuck?		早口ことば How much wood would a woodchuck chuck? (3回連続で言う。)
導 入	感触、形状を表す表現を導入する活動	復 習	感触、形状を表す単語を復習する活動
慣 れ 親 し ま せ	感触、形状を表す表現に慣れ親しませる活動	慣 れ 親 し ま せ	ブラックボックスクイズ <行動観察> 外国の遊びを知ろう <行動観察>
返 振 り	振り返りシートに記入させ、数人の児童に気が付いたことや楽しかったことを発表させる。	返 振 り	振り返りシートに記入させ、数人の児童に気が付いたことや楽しかったことを発表させる。



けん玉が木製なので、単語の wood を導入するために上記の早口言葉を取り上げました。何回も練習をして、児童に達成感を与えることも期待できます。

第 16 章 どのような校内研修をすればよいでしょうか？

英語活動の導入に伴い、学校として教員全員が英語活動を実践できるようにしていく必要があります。そのためには、校内で英語活動の目標などの基本的な考え方を理解したり、実践的な指導方法を体験したり、アイデアを交換したりする場を設けましょう。

1 校内研修で扱う内容

校内研修で扱う内容は、次の点を参考に各学校の状況に合わせて研修計画を立ててください。内容やねらいに応じて、対象を教員全員にするか、学年又は個人にするかを考えましょう。形態についても、講義、話し合い、体験活動などをバランスよく配置しましょう。

英語活動の授業のイメージを持つ

英語活動の授業見学、英語活動の映像資料の視聴など

英語活動の目標や内容を理解する

小学校学習指導要領（外国語活動）の理解、いろいろな活動や指導方法の理解など

年間指導計画を考える

英語活動の指導目標の設定、年間指導計画、評価など

授業を作る

単元計画案、学習指導案、教材・教具、活動事例研究、指導方法研究など

英語に慣れ親しむ

クラスルームイングリッシュ、発音・アクセントなど

A L T に参加してもらえば、指導法だけでなく英語・文化に関する研修もできるでしょう。

2 実践校の例

英語活動に取り組んできた小学校の校内研修例を紹介します。自校での研修を計画する際に参考にしてください。

(1) A 小学校の場合

A 小学校では、英語活動の指導をするのは担任となっています。校内研究部の中に、校内授業研究部、英語活動研究部の二つの組織があります。下記の研修が、教員全員を対象に行われています。

公開授業 : 全クラスで年 1 回実施

全体協議会 : 英語活動の在り方を理解し、指導目標を共有するための話し合い

学年 : 学習指導案の検討と作成、反省会、年間のまとめ

英語活動の授業でうまくいったことや児童の様子について情報交換をしたり、アイデアを出しながら教材・教具を作ったり、教職員全員で英語活動に取り組んでいます。



(2) B小学校の場合

B小学校がある市では、3名の英語活動担当教諭（ALT 1名を含む）が、市内の小学校の担任とTTで英語活動をしています。担任は、英語活動担当教諭が用意した台本を基に打合せを行い、授業に臨みます。

< 英語活動担当教諭とのTTを1年間経験した学級担任の声 >

最初は、英語活動について何も分からなかったが、今はどのように英語活動を進めるか分かってきた。TTを行いながら「自分が何とかしなくてはいけない」という気持ちになり、クラスで日常的に少しずつ英語を使い始めた。毎日繰り返すと、英語を使う恥ずかしさも感じなくなり、表現もスムーズに口から出るようになってきた。

B小学校の事例は、TTを研修として位置付けることを示唆しています。例えば、ALTとのTTを校内研修の一つの形態として位置付けて、担任が次のことを意識してALTと一緒に授業を進めることも考えられます。

授業を観察する

- ・ ALTを観察する。

指示の仕方（ジェスチャー、表情、教具の使い方など）、活動の進め方、使用している英語、児童の反応への対応などを観察します。

- ・ 児童を観察する。

ALTの指示に対する児童の理解や反応、活動への取組などを観察します。

授業に参加する

- ・ ALTと一緒に授業を進める。

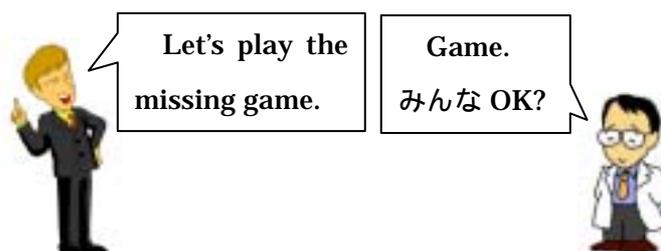
児童の視野に入る位置に立ち、授業の開始時と終了時には児童の前でALTとあいさつをします。デモンストレーションは、ALTと一緒にいきます。また、ALTが言った指示を繰り返す（ALTが出した指示の最後の言葉を繰り返すことから始めましょう。）英語で指示を出すことに慣れていきます。

- ・ 児童と一緒に活動に参加する。

歌を歌うときや表現の練習をするときは、大きな声で児童と一緒に練習します。インタビュー活動のように児童と一緒に活動できるものは、自分も参加しましょう。

授業計画を作る

所属校の先生方やALTと協力して授業計画を作ります。TTだけでなく担任単独で行う授業の計画も作ってみましょう。



第17章 保護者にどのようなことを理解してもらおうとよいでしょうか？

英語活動に対する保護者の期待は高く、保護者によっては小学校英語活動が目標とするものとは別のイメージを抱いている方も少なくありません。英語活動では、どのようなことをするのか保護者に理解してもらうことが大切です。

1 校内の共通理解

保護者に小学校英語活動とはどういうものか理解してもらう前に、英語活動の目標や学校で設定した指導目標、学習内容などについて学校全体で共通理解を図りましょう。それぞれの担任がばらばらに英語活動に取り組むのではなく、学校や学年としてまとまりのある取組をすることが、保護者の理解を得るために大切なことです。

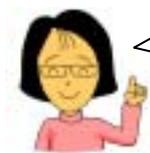
2 保護者に理解してもらう内容

英語活動について保護者に理解してもらう内容として、小学校学習指導要領（外国語活動）の内容、英語活動を通じて育成したい児童の姿、聞くことと話すことが中心であること、中学校の英語教育の前倒しではないことなどが挙げられます。次に示すのは、英語活動に関する保護者向けの説明例です。

「(学習指導要領の内容を簡潔に説明した上で、)英語の読み書きや英語を聞くことができる、話すことができるようにすることが目的ではありません。英語を聞く・話すという音声を中心に、人のかかわりを重視した活動を行い、英語は楽しい、英語はおもしろい、という児童を育成したいと考えています。」

「たくさんの表現や単語の綴りを覚えたり、文法を理解して英文を読んだり書いたりすることは、小学校英語活動の目的ではありません。中学校の英語教育の前倒しではないことをご理解ください。本校では、簡単な英語に慣れ親しみながら、コミュニケーションすることの楽しさや大切さに気付いてほしいと考えています。」

英語活動について保護者に理解してもらう機会として、学年懇談会、学級懇談会、授業参観などを活用しましょう。また、「本校の英語活動について」、「学校だより」、「学級通信」などの保護者あて文書を通じて保護者の理解を得ることも大切です。



保護者の理解を促す機会を繰り返し設けることが大切です。また、英語活動の時間に授業参観を設定したり、授業の様子を撮った写真を保護者あての文書に付けると、保護者にとって英語活動がどのようなものか理解しやすくなるでしょう。

第 18 章 中学校にどのようなことを理解してもらおうとよいでしょうか？

平成 19 年度英語教育改善実施状況調査（文部科学省）によると、小学校との連携を実施している中学校は、前回の 35.1%から 38.0%になりました。主な内容は授業参観（70.6%）、指導法についての検討会（38.7%）、小学校教員との T T（23.6%）、英語キャンプなどの合同活動（1.6%）となっています。中学校との円滑な接続という視点から、中学校と協力的な関係を築くことは大切なことです。小中交流の中で、小学校の英語活動は中学校から始まる英語教育とどのようにつながっていくのか、また、どのような点が違うのか、ということをお小学校と中学校の双方の教員が理解していくことが肝要です。

1 小学校の英語活動と中学校の英語教育

小学校の英語活動は、コミュニケーション能力の素地を養うことが目標です。この素地の上に、中学校の外国語科の目標であるコミュニケーション能力の基礎が作られます。

中学校学習指導要領（平成 20 年 3 月）は、外国語科の目標を「外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う」こととしています。文法などの知識を身に付けて英語を運用できる能力の基礎を養います。

一方、小学校では、体験的に「聞くこと」と「話すこと」を通して、児童が音声や基本的な表現に慣れ親しむことが大切です。多くの表現を覚えたり、細かい文構造などを理解したりすることは、小学校で行う英語活動の目標とは合いません。また、文字は音声を中心とした指導を補助する程度に扱うものであり、発音と綴りの関係は中学校で扱う内容となっています。

以上のように、小学校の英語活動と中学校の英語教育には異なる部分があります。小学校と中学校の円滑な接続という視点から、このような違いがあることを理解しておくことは大切です。

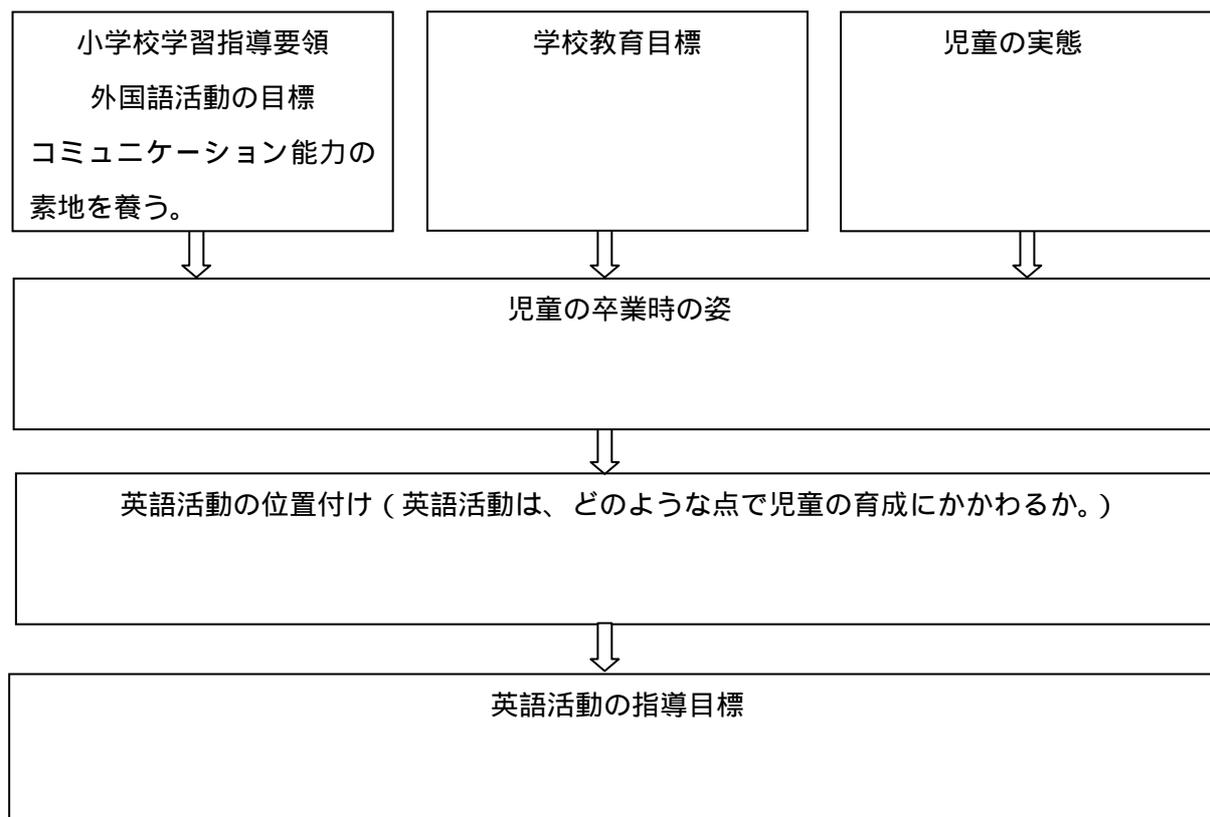
2 中学校の先生方に理解してもらおう内容

中学校の先生方には、児童がどのような英語に触れてきたかを理解してもらおうとよいでしょう。そのためには、年間指導計画又は年間指導計画に代わるものや学習指導案、略案などを中学校に示すとよいでしょう。年間指導計画は、英語活動で扱った主な英語表現が載っていると、中学校の先生方にとっては更に役に立つでしょう。授業で使った学習指導案や略案であれば、中学校の先生方に、英語活動はどのように行われているかを知ってもらうことができます。

地域で小学校と中学校の合同の集まりがある場合や中学校の先生が小学校を訪問したときに、どのような英語活動を行ってきたか分かるものを渡すなどしながら交流を図りましょう。

また、中学校の先生方に英語活動の授業を見てもらうことで、理解を深めてもらうことができますように。

ワークシート1 年間指導計画を作成するために



英語活動で扱いたいトピック： 年間 35 単位時間を 35 個のトピックで構成するか、もっと少ないトピックを基に単元で構成するかも含めて考えましょう。 単元で構成する場合は、それぞれの単元にだいたいの時間数を書き入れておきましょう。

ワークシート2 授業を作るために：授業の流れやシナリオを作成する際に使ってください。

流れ	活動内容	担任の動きと主な英語

主な単語一覧

英語ノートで扱われている単語です。2段に分かれている欄は、上段が英語ノート、下段は「小学校英語活動15」で扱われている単語です。英語の表現を選ぶときの参考にしてください。
 ´は最も強く発音する箇所、`は次に強く発音する箇所を表します。

色	bláck, blúe, gréen, órange, pínk, réd, whíte, yéllow, brówn, góld, gráy, índigo, púrple, sílver, víolet
応答	yés, nó, ÓK
数	óne, twó, thrée, fóur, five, six, séven, éight, níne, tén, eléven, twélve, thìrtéen, fòurtéen, fiftéen, sixtéen, sèventéen, èightéen, nìnetéen, twénty, thírty, fórtý, fifty, síxty, séventy, éighty, nínety, óne húndred fírst, sécond, thírđ, fóurth, fíftđ, síxth, séventh, éighth, nínth, ténth, eléveth, twélfth, thírteénth ~ twéntieth, twénty-fírst, twénty-sécond, twénty-thírđ, twénty-fóurth ~ twénty-nínth, thírtieth, thírty-fírst óne thóusand, óne hálf, óne thírđ, óne fóurth, twó thírđs, thrée fóurths, thrée póint fòurtéen, twénty póint séven zéro éight
家族	bróther, fáther, grándfáther, grándmà, grándmòther, grándpà, máma, móther sístér
形	círcle héart, héxagòn, óctagòn, óval, réctàngle, squáre, stár, tríàngle
からだ	éars, éyes, héad, héart, knées, móuth, nóse, shóuldérs, tóes árms, báck, élbóws, féet, fíngers, hánds, légs, néck, táil, téeth wíngs
教科	Jàpanése, sócial stúdiés, máth, sciénce, músic, àrts and cráfts, hòme económics, P.É., Énglish
行事	birthday, Chrístmas, féstival, Név Yéar's féstival
果物	ápple, banána, frúit, lémon, órange, péach, píneápple chérry, grápe, kíwi frúit, mélon, péar, persímmon, stráwbèrry, wátermèlon
国	América, Austrália, Brazíl, Cánada, Chína, Égypt, Fránce, Ghána, Ítaly, Japán, Koréa, Rússia, Sènegál, Sóuth África the Unítéd Kíngdom, Gérmány, Spáin
形容詞	ángry, béautiful, bíg, cléan, cóol, cúte, dáily, fíne, góod, háppy, húngry, máný, níce, smáll, spécial, sléepy bóred, búsy, excítéd, sád, scáred, surpríséd, thírsty, tíred

言葉	Chinése, Énglish, Jàpanése
時間	mórning, todáy
職業	áctor, áctress, ártist, ástronàut, báker, báseball plàyer, cábin attendànt, cárpenter, cartóonist, comédian, compúter prògrammer, cóok, dáncer, déntist, dóctor, ènginéer, fármer, fásion desìgner, fire fighter, fisherman, flórist, láwyer, núrse, núrseery schòol tèacher, photógrapher, pílot, pólice òfficer, rácing drìver, scientist, sínger, sóccer plàyer, súmo wrèstler, súshi chèf, téacher, ténis plàyer, vét, zóokèeper
	háirdrèsser, néwscàster, tráin drìver
食事	dínner, lúunch, ménu
植物	flówer
	carnátion, chéry blòssoms, dándelion, líly, máple, pálm trée, pánsy, píne, plúm blòssoms, róse, súnflòwer, trée, túlip
スポーツ	báseball, básketball, sóccer, spórts, swímming, táble ténis, ténis, vólleyball
	cýcling, dódge ball, júdo, karáte, píng-pòng, rúnning, sáiling, skíing, tráck and field
食べ物	bréad, cáke, céreal, créam pùff, croissánt, grátin, íce créam, júice, mílk, míso sòup, ómelet, pízza, púdding, rice, rice ball, sálad, sáusage(s), sòup, spaghétti, stéak, súshi, yógurt
	cúrry and rice, fríed chíccken, fríed pórk, hámburger, shrímp, wáter
月	Jánuàry, Fébruàry, Márch, Ápril, Máy, Júné, Julý, Áugust, Septémber, Octóber, Novémber, Decémber
天気	clóudy, cóld, cóol, fíne, hót, húmid ráiny, snówy, stórmy, súnny, wárm, wíndy
動詞	can, can't, do, dón't, would
	am, are, bóught, cóme, éat, enjóy, flý, gèt úp, gròw úp, háve, hélp, hópe, is, lét, líke, lísten, lóve, máke, pláy, púll, ríde, rún, sáy, sée, síng, spéak, stóp, stúdy, swím, téach, túrn, wánt, wórk
	ásk, chéck, clóse, cópy, cóunt, dráw, gíve, gó, guéss, júmp, líve, lóok, ópen, píck úp, pút, ráise, shów, sít dówn, smíle, spréad, stánd úp, stárt, táke, tóuch, trý, túrn aróund, úse, wálk, wátch, wríte

動物・昆虫	<p>áanimal, béar, bírd, cáamel, cáat, dóg, élephant, fish, giráffe, gorílla, híppo, hóirse, kàngaróo, koála, líon, móuse, pánda, pénguín, rábbít, shéep, snáke</p> <p>búttterfly, ców, dólphin, fóx, góat, hén, mónkey, mónster, móose, óstrich, píg, pólar bèar, raccóon dòg, rhíno, snáil, squírrel, swán, tíger, tórtóise, wálrus, whále, wólf, zébra</p>
都市	Beijíng, Dakár, Móscow, Nèw Yórk, Sao Páulo, Sýdney, Tókyo, Vancóuver
乗り物	<p>cár, táxi, únicycle</p> <p>áirpláne, ámbulance, bícycle, bús, cár, hélicòpter, mótorcycle, shíp, súbway, tráin, trúck</p>
場所・建物	<p>bánk, bárbershòp, béach, bóokstòre, bús stòp, cástle, cénter, cóffee shòp, depártment stòre, désert, dónuts shòp, éxit, fire stàtion, flówer shòp, hóspítal, kíchen, móuntain, párk, políce bòx, póst òffice, píramid, réstaurant, róom, schóol, séa, stàtion, súpermàrket, tówer, tráin stàtion</p> <p>cítý háll, convénience stòre, eleméntary schòol, fáctory, hígh schòol, júnior hígh schòol, líbrary, shríne, stádium, témples, tówn</p>
人	bóy, friénd, gírl, péople,
文房具	<p>pén, péncil, péncil càse, scíissors</p> <p>báll-point pén, eráser, glúe, nótebòok, rúler, stápler</p>
方向	léft, ríght, stráight
身に付けるもの	<p>cáp, dréss, glóves, kimóno, pánts, shóes, skírt, sócks, swéater, T-shírt</p> <p>cóat, jácket, shírt, únderwèar</p>
野菜	<p>cábbage, tomáto, túrnip</p> <p>cárrót, córn, cúcumber, éggplànt, gréen pépper, léek, múshroom, ónion, potáto, púmpkin, swéet potàto, végetable</p>
曜日	Súnday, Mónday, Túesday, Wédnesday, Thúrsday, Fríday, Sáaturday
その他	<p>bág, báll, bóok, cáendar, cámera, díamond, éarth, guitár, páper, píáno, róck scíissors páper, sóng, stár, TÍV, wáttch súmmer,</p> <p>cárd, máp, móon, ráinbòw, snówmàn, sún, téxtbòok áutum/fáll, wínter, spríng</p>

主な表現一覧

英語ノートで扱われている主な英語表現です。

あいさつをする	Hello. Hi. How are you? Nice to meet you. Nice to meet you, too. Good-bye. See you. Good night.
誘う	Let's [enjoy... / go / go to... / listen / make... / play... / sing / ...].
感謝する	Thank you. Thank you very much.
尋ねる	Do you have (a)...? Do you like (a)...? Is this...? Are you ready? Can you play [soccer / the guitar / ...]? What? What's this? What time is it? What time do you get up? What's the matter? What do you want? What do you want to be? What do I teach? What would you like? What can you do? When is your birthday? Where is the station? How many? Who am I?
応答する	Yes, I do. No, I don't. Yes, it is. Yes, I can. Yes, let's.
自分のことを言う	My name is... I'm [fine / happy / sleepy / tired / thirsty / ...]. I'm [Ann / a cook / a hippo / in the sea / ...]. I have (a)... I like (a)... I don't have (a)... I don't like (a)... I study... I'd like... I get up at seven. I take a bath. I go [home / to bed / to school / ...]. I play [baseball / soccer / the guitar / the piano / ...]. I want to [go to Italy / eat a hamburger / ...]. I want to be a [florist / nursery school teacher / dentist / ...]. I can [play soccer / make an omelet / ride a unicycle very well / swim / ...]. I can't [fly / play... / ...]. We can't...
ものを渡す	Here you are.
命令する	Be quiet. Get up. Come here. Go straight. Turn right. Look at this. Please come here. Please help me.
時間を言う	at 11:00. It's at 10:45.
場所を言う	at home at school in Australia

引用・参考文献

- 海老名市立社家小学校 2007 平成 18 年度研究収録「小学校における英語活動の教材教具やカリキュラムの開発 自らコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」 海老名市立社家小学校
- 海老名市立社家小学校 2008 平成 19 年度研究収録「小学校における英語活動の教材教具やカリキュラムの開発 自らコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」 海老名市立社家小学校
- 小田原市立久野小学校 2008 「コミュニケーション能力の育成～楽しい英語活動を通して～」 小田原市立久野小学校
- 神奈川県立総合教育センター 2008 「小学校英語活動 15 子どもたちの積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために」
- 茅ヶ崎市立緑が浜小学校 2008 「平成 19 年度研究紀要」
- 文部科学省 平成 20 年 「小学校学習指導要領」
- 文部科学省 平成 20 年 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』 東洋館出版社
- 文部科学省 2008 「小学校外国語活動研修ガイドブック」
- 安彦忠彦・大城賢・直山木綿子 『小学校学習指導要領の解説と展開 外国語活動編』 教育出版
- 小川隆夫 2007 『先生、英語やろうよ！ 2 . 高学年のための小学校英語』 松香フォニックス研究所
- 影浦攻 2007 『新しい時代の小学校英語指導の原則』 明治図書
- 久埜百合 1999 『こんなふうに始めてみては？ 小学校英語』 三省堂
- 後藤典彦・富田祐一 2001 『はじめてみよう！ 小学校・英語活動』 アプリコット
- 白井恭弘 2008 『外国語学習の科学 第二言語習得論とは何か』 岩波新書
- 竹久保明弘 2007 「小学校英語活動における教材開発の基本的な考え方」(平成 18 年度神奈川県立総合教育センター研究収録第 26 集)
- 竹久保明弘 2008 「『興味・関心や意欲』を重視した英語活動 英語活動集『小学校英語活動 15 の作成』」(平成 19 年度神奈川県立総合教育センター研究収録第 27 集)
- 田崎清忠 1995 『現代英語教授法総覧』 大修館書店
- 樋口忠彦・金森強・國方太司 2005 『これからの小学校英語教育 理論と実践』 研究社
- 吉田研作 2008 『小学校英語指導プラン完全ガイド』 アルク
- H.カーテン・C.A.B.ペソーラ 1999 『児童外国語教育ハンドブック』 大修館書店

『はじめよう 楽しい英語活動～小学校英語活動 進め方のヒント～』の

作成関係者

< 助言者 >

所 属	職 名	氏 名
大東文化大学	教 授	富田 祐一

< 調査研究協力員 >

所 属	職 名	氏 名
茅ヶ崎市立緑が浜小学校	総括教諭	鳶崎 賢次
海老名市立社家小学校	総括教諭	山形 昭彦
平塚市立山下小学校	教 諭	木村 美希
南足柄市立南足柄小学校	総括教諭	中村 有佐
小田原市立久野小学校	教 諭	川口 敦

< 神奈川県立総合教育センター >

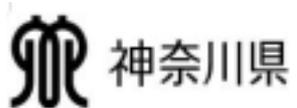
所 属	職 名	氏 名
カリキュラム支援課	指導主事	奥山 澄夫
カリキュラム支援課	指導主事	荒川 憲行
カリキュラム支援課	教育指導専門員	佐藤 純

はじめよう 楽しい英語活動
～ 小学校英語活動 進め方のヒント～

発 行 平成 21 年 3 月
発行者 安藤 正幸
発行所 神奈川県立総合教育センター
〒251-0871 藤沢市善行 7 - 1 - 1
電話 (0466)81-1659 (カリキュラム支援課 直通)
ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

本冊子は、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター

カリキュラムセンター（善行庁舎）

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

TEL (0466)81-0188

FAX (0466)84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

教育相談センター（亀井野庁舎）

〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4

TEL (0466)81-8521

FAX (0466)83-4500

